

恵みに感謝、 未来への絆

Ryumon Dam

竜門ダムの軌跡

これからも地域と共に

～ 恵みに感謝、未来への絆 ～

竜門ダムは、熊本県北部を流れる菊池川の支川「迫間川」の上流に位置し、「菊池渓谷」でも有名な菊池市街地から僅か10 kmほどにある身近なダムです。

ダムが位置する菊池川流域は、度々大きな洪水に見舞われ、そのたび人々を苦しめてきました。

また、同流域では、古くから米作り※をはじめとした農業が盛んでしたが、菊池台地などは、利水条件が悪く、大部分を雨水に頼っていたため、干害に悩まされてきました。

こうした中、昭和39年に計画されたのが、洪水調節・流水の正常な機能の維持、かんがい用水、都市用水の補給を目的とした竜門ダムです。

人々の暮らしを守り水の恵みを与えてくれる竜門ダムは、これまで多くの方々のご理解とご協力に支えられ、平成14年4月の管理運用開始から15周年を迎えることが出来ました。

これからも、地域の皆さんと共に歩み、絆を育んで行くため、竜門ダムの軌跡を振り返ります。

※ 平成29年4月、「菊池川流域の二千年にわたる米作り」が日本遺産に認定。





竜門ダムの軌跡

CONTENTS

Chapter 1

～竜門ダムの概要～

1. 竜門ダムの概要

- ・ 竜門ダムの目的と概要 P.04
- ・ 竜門ダムの諸元 P.06
- ・ 竜門ダムの施設と管理 P.08
- ・ 竜門ダムの機能と効果 P.12

2. 竜門ダムのあゆみ P.22

3. 竜門ダムの利活用 P.32

Chapter 2

～竜門ダム完成15周年記念事業～

1. 竜門ダムフェスタ・感謝祭 P.37

2. コラボレーション P.42

3. 竜門ダム工事事務所 歴代所長意見交換会 P.44

1. 竜門ダムの概要

竜門ダムの目的と概要



洪水調節と利水のための多目的ダム

竜門ダムは、一級河川菊池川の支川迫間川に建設された多目的ダムです。

当ダムは、菊池川の沿川のたび重なる洪水による被害を防止・軽減するとともに、河川を良好な環境に保全するために必要な流量を確保します。

また、菊池川中流部の菊池台地をはじめ、かんがい用水を補給し、熊本県荒尾・長洲地区及び福岡県大牟田地区に対しては、都市用水を補給することで、熊本県北部地方唯一の水ガメとして渇水時の水不足を解消するなど、地域発展に貢献するダムです。

■ 菊池川

菊池川は、その源を熊本県阿蘇市深葉（標高1,041 m）に発し、阿蘇外輪山の渓流をあつめ菊池市を流下して上内田川、迫間川、合志川、岩野川等を合わせつつ菊鹿盆地を貫流し狭窄部に入り、玉名平野に出て玉名市において木葉川及び繁根木川等を合わせ有明海に注ぎます。

流域では農業が盛んであり、流域で収穫された米は、古くは肥後米の名で知られ、全国の米相場をリードしました。

Topics



■ 竜門ダムの特徴

Topics

竜門ダムは、次のような大きな特徴をもっています。

○国内最大級の複合形式のダム

竜門ダムは、高さ約100m、長さ約380mの重力式コンクリートダムと高さ約30m、長さ約240mのロックフィルダムとで構成される複合形式のダムです。竜門ダム建設地点の地形や地質条件に最も適した形式として選定されていますが、この形式のダムは日本国内でも数が少なく、同タイプのダムの中では国内最大級の規模を誇っています。

○交通至便の里ダム

菊池市は、阿蘇観光ルートの北の玄関口に位置し、「菊池温泉」、「菊池渓谷」などの観光拠点を中心に、年間200万人の観光客が訪れる観光都市です。竜門ダムは、菊池市の市街地から約10分、熊本市の中心部から約1時間、熊本空港から約40分の距離にあり、交通の便が極めて良い、また、福岡市からも九州自動車道を経由して所要時間が約2時間と、日帰り行楽圏に入っています。さらに、いわゆる里ダムで、山間狭隘部のダムとは異なり周辺の地形がゆるやかで利用しやすい地理的場所にあります。

○県境を越えた広域的な導水計画

竜門ダムは流域面積が約26km²と小さいために、菊池川本川の立門地点及び隣接する大分県日田市の下釜ダムから、川の水量に余裕がある際に、それぞれ毎秒10m³を限度として竜門ダムへ導水を行います。このような県境を越えた広域的な導水は全国的にみてもきわめて例が少なく、竜門ダムの大きな特徴となっています。

○日本初の1mリフトによる本体施工

従来のRCD工法による重力式コンクリートダム工事では、コンクリート締め固め用の振動ローラとしてBW200を用い、一度に50cm～75cmの厚さのコンクリートを締め固めていましたが、竜門ダムでは新しく開発された締め固め機械である振動ローラのSD450を導入することにより、わが国で初めて一度に100cmずつ締め固める施工法を採用し、良好な品質のコンクリートダムを建設しました。この施工法は、ダム工事のスピードアップとコストダウンを図る上で画期的な成果を上げることができ、以降のわが国のダム建設にも採用されています。さらに、ダム工事期間中死亡事故ゼロという輝かしい記録を達成し、RCD工法が労働安全性の面でも優れた施工法であることを実証しました。

■ RCD工法の打設フロー

1. コンクリートの運搬



バッチャープラントで製造されたコンクリートは、ダンプトラックに積み込まれ、そのまま堤体打設進入路からリフトアップ棧橋を通り、打ち込み箇所へ運搬されます。

2. コンクリートの敷均し



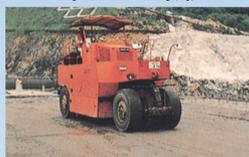
タンピングされたコンクリートを、ブルドーザによって1リフトの仕上がり厚100cmを確保するため、約110cmの厚さに敷均します。

3. コンクリートの締め固め



コンクリートの締め固めは、新たに開発された振動ローラSD450を使用し、時速1km程度で12回（6往復）の振動転圧を行います。

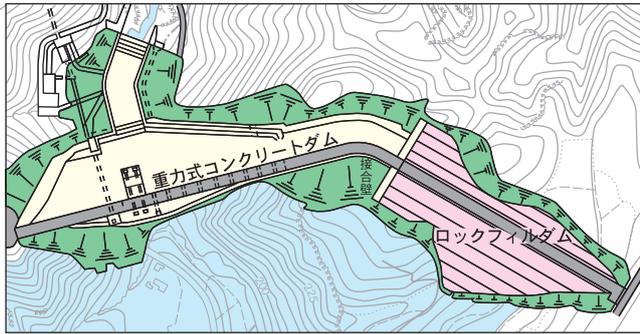
4. 仕上げ転圧



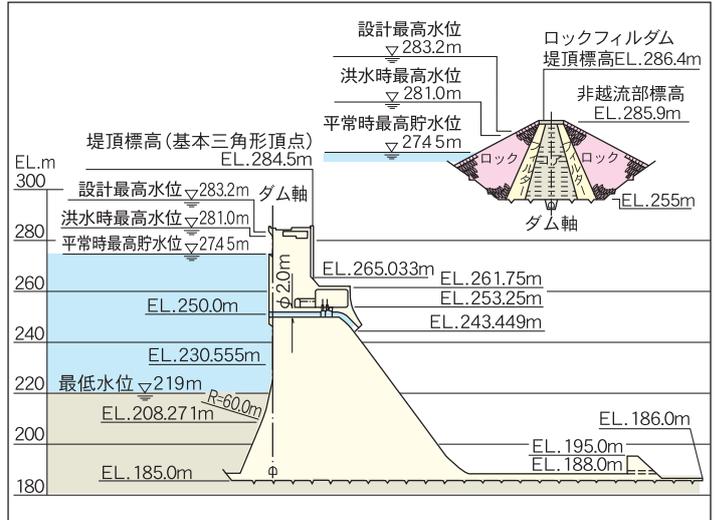
タイヤローラにより6回（3往復）の仕上げ転圧を行います。

竜門ダムの諸元

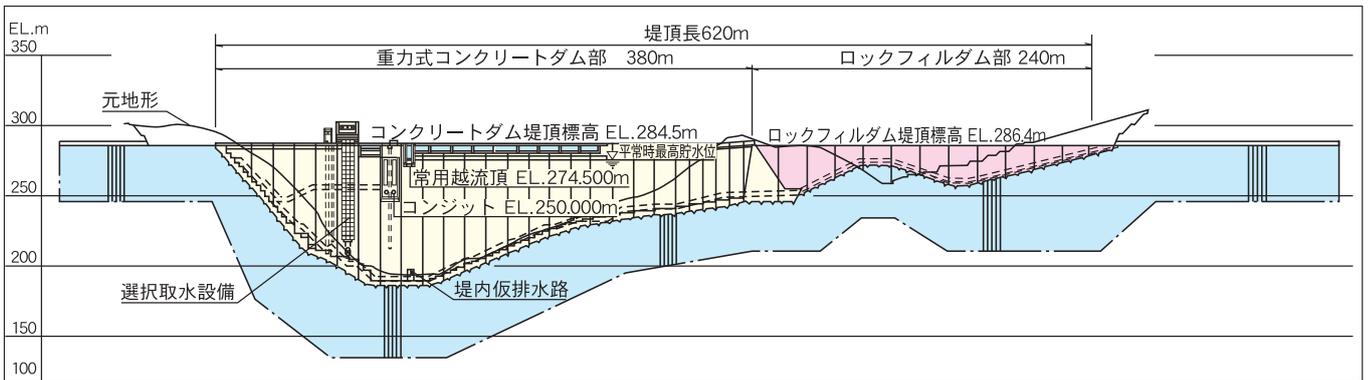
■ 平面図



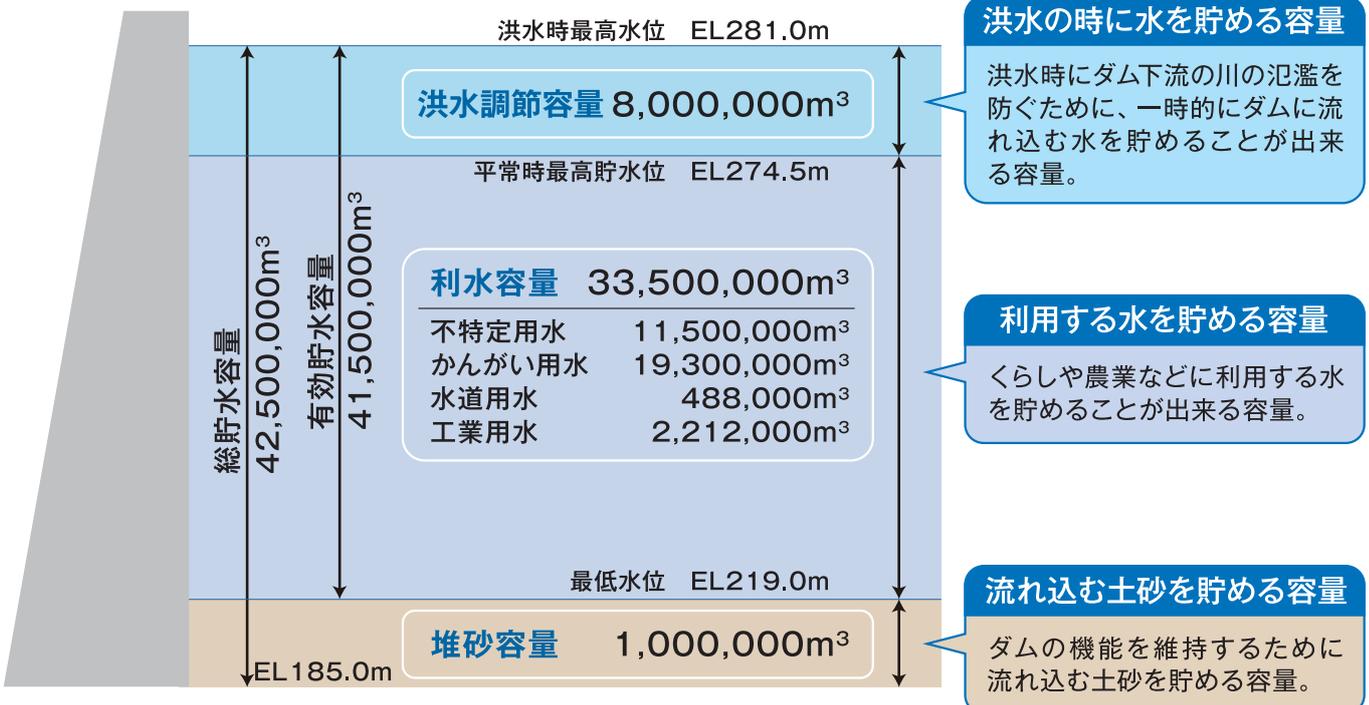
■ 標準断面図



■ 縦断面図 (上流図面)



■ 貯水容量



■ダム

竜門ダムは重力式ダムとロックフィルダムの複合形式（コンバイン形式）の多目的ダムで、堤高99.5m、堤頂長620m、総貯水量4,250万m³です。

河川名	菊池川水系迫間川		堤頂標高	EL.284.5m	EL.286.4m
位置	熊本県菊池市龍門、班蛇口		非越流部標高	EL.284.5m	EL.285.9m
型式	複合ダム		堤頂幅	8.0m	10.0m
ダム諸元	重力式ダム	フィルダム	堤体法勾配 上流面 鉛直 フレット:0.4 下流面	1:2.6	1:2.0
堤高	99.5m	31.4m			
堤頂長	380m	240m			
堤体積	844千m ³	230千m ³			



集水面積	26.5km ²	有効貯水容量	41,500,000m ³
湛水面積	1.3km ²	洪水調節容量	8,000,000m ³
設計洪水位	EL.283.2m	利水容量	33,500,000m ³
洪水時最高水位	EL.281.0m	河川環境の保全	11,500,000m ³
平常時最高貯水位	EL.274.5m	かんがい	19,300,000m ³
最低水位	EL.219.0m	水道用水	488,000m ³
総貯水容量	42,500,000m ³	工業用水	2,212,000m ³
		堆砂容量	1,000,000m ³

貯めることのできる貯水量は
福岡ヤフオク!ドーム×約40杯

竜門ダム
総貯水容量
4,250万m³

福岡ヤフオク!ドームを
バケツに例えた場合
約40杯
に相当する水量と同じです。

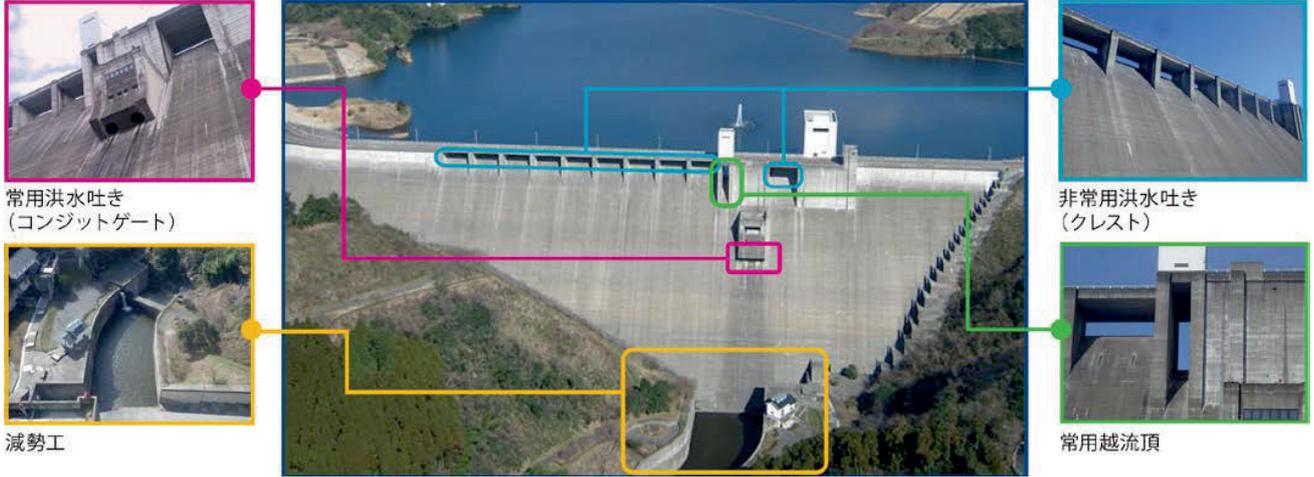
■導水路

導水路名	立門導水路	津江導水路	迫間導水路
位置	分水口:熊本県菊池市重味 吐口:熊本県菊池市班蛇口	分水口:大分県日田市中津江村栃野 吐口:熊本県菊池市班蛇口	分水口:熊本県菊池市龍門 吐口:熊本県菊池市重味
構造	馬蹄形コンクリート(インバート水平型)	馬蹄形コンクリート(インバート水平型)	円形コンクリート(インバート水平型)
延長	4.20km	12.20km	2.97km
最大通水量	10m ³ /s	10m ³ /s	2.5m ³ /s
導水路勾配	1/2,100	1/1,000	1/314(1,655m) 1/758(1,315m)

竜門ダムの施設と管理

ダムの水を管理するための施設

ダムの水を目的に応じて洪水調節をおこなう際に放流するための常用洪水吐き（コンジットゲート）2門、常用越流頂、非常用洪水吐き（クレスト）があります。また、下流への用水補給用や適切な貯水量を維持する施設として放流バルブがあります。



■ 常用洪水吐き（コンジットゲート）

コンジットとは導管のことで、堤体中を貫通して設けられることからこう呼ばれます。ダム中央部に設置されていて、洪水時にはゲートを使って流す水量を調整しています。

■ 減勢工

ダムから放流する水のエネルギーを弱めるための施設で、ダム下流へ安全に流します。

■ 非常用洪水吐き（クレスト）

クレストとはダムの堤頂部のことで、非常に大きな洪水時にダム天端からの越流を防ぐための非常用の放流口として使用されます。

■ 常用越流頂

貯水位が平常時最高貯水位を超えたときに自由越流により水を流すための設備で、コンジットゲートと組み合わせて洪水調整を行います。



竜門ダムの利水放流設備は、ダム上流側にある選択取水設備から導水管を通して、河川維持用水、かんがい用水、水道用水、工業用水の目的のために、それぞれの放流設備からの水を放流しています。

ダムを管理するための設備

■ダム管理支所



竜門ダムを管理するための機器などがあり、中枢的な役割を果たします。

■警報設備



ダムから放流を始める前や放流中にサイレンや標示板で注意喚起を行う設備です。竜門ダムには15箇所あります。

■CCTVカメラ



竜門ダムでは様々な個所でカメラによる施設、河川の監視を行っています。

■監査廊



ダム堤体の内部に設けられた点検や観測のための通路です。内部には計測機器、監視カメラが設置されています。また、放流施設もここから入ります。竜門ダムでは、全長およそ1 kmにもなります。

■繫船設備



貯水池の巡視や作業で使用するボートを搬出、格納するための設備です。ボートは普段陸上にあげておき、使用する際にはこの設備で船を湖面までおろします。

■流木処理施設



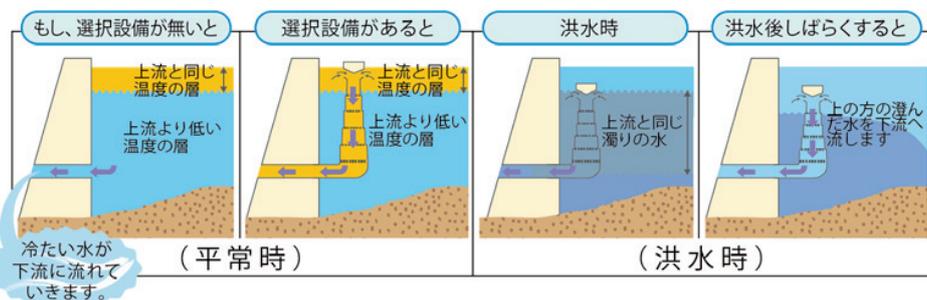
大雨が降ると貯水池にゴミや流木が流れ込んできます。このような流木等を放置するとゲートなどの施設に損傷を与えるので上流で止めます。

環境への影響を減らすための設備

■選択取水設備

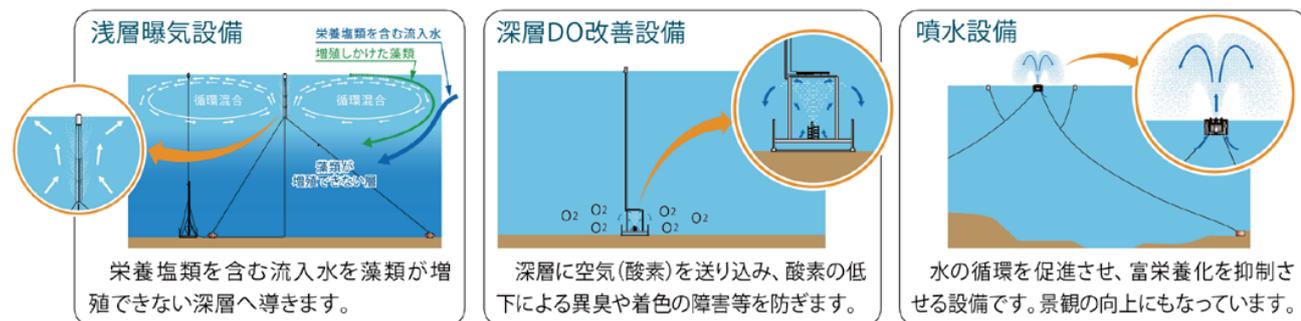


平常時にダム湖より河川に水を流す設備で、農業用水・都市用水・河川に必要な水はこの設備を通して補給します。平常時は上流河川水の水温に近い層の水を、洪水後には上の方の澄んだ水を流し環境への影響を軽減します。



■水質改善装置

水を貯留することによって生じる藻類などの異常発生を富栄養化現象と呼んでいます。富栄養化によって淡水赤潮やアオコの発生が懸念されることから、竜門ダムでは曝気設備などを運用し良好な水質の保全に努めています。



ダムの管理

ダムの管理は、大きく分けて3つあります。洪水時の「高水管理」。農業用水・都市用水・河川に必要な水の補給等を行う「低水管理」。ダム機能の維持のための「施設管理」です。

梅雨や台風など大雨が予想され、洪水が起こりそうな時に竜門ダムでは洪水警戒体制に入ります。雨量レーダーで広範囲の情報を、雨量計や水位計でダム周辺の情報を収集し、各種データを基に今後ダム周辺の雨の状況や入ってくる水の量を予測し、その後ダムに入ってくる水の一部を貯め、安全な水量だけを下流へ放流する「洪水調節」を行っています。

放流を行う前には、関係機関への連絡、ゲートの点検等の放流準備を行います。同時にダム下流の巡視を行い川に人がいないかなどの安全確認を行っています。大雨の時は、平日・休日、昼夜に関係なく職員は洪水対応を行っています。

■高水管理

気象、水文データ収集



高水管理を行うには、雨の降り方の予測が最も大切です。予測を行うために雨量レーダーや雨量・水位計からデータが集められます。

放流設備の点検



ゲートなどの設備を点検し、放流に備えます。

降雨量・流入量の予測洪水調節計画の決定

下流への巡視、警告



サイレンや情報標識板で放流することを伝えます。併せて巡視を行い、釣りや川遊びをしている人がいないか確認します。

放流開始



ダムに入ってくる水が一定の水量を超えると予想されると、ダムから水を流し始めます。

さらにダムに入ってくる水量が増えると

洪水調節



ダムに洪水の一部を貯め洪水調節を行うことで、川の増水を緩和し、下流地域の被害を減少させることができます。

■低水管理

菊池川の水は、農業用水、飲料水や工業用水に利用されています。また、川の生物達にも必要な資源です。そこで、定期的な水利用を可能にするため、適切にダムの貯留水を管理し、下流への補給を行なっています。



上流にダムがない川

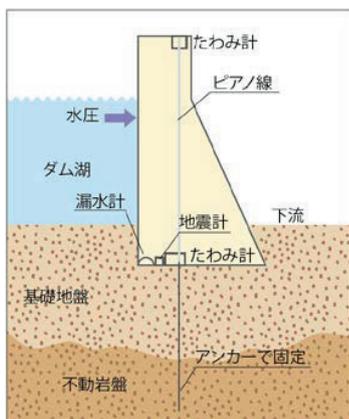


上流にダムがある川

ダムを機能させるための施設管理

ダム本体の点検、施設の保守及び巡視など雨の降っていない平常時にも色々な管理業務を行い、ダムの機能をいつでも最大限に発揮できるように、ダムの状態を確認しています。

ダムの本体の点検



ダムの中の計測機器

ダムは季節や朝夕の気温の変化、貯水池の水位、水温などによって変化しています。この変化をきちんと測定するための様々な測定機器がダム内部には設置されており日々監視を行っています。



たわみ計



地震計



漏水量点検

施設の維持・点検・巡視

ゲートや水位計、雨量計などの各施設が正常に作動するかを定期的に点検・巡視を行っています。貯水池内の流木やゴミの除去を行い、環境保全に努めるとともに、貯水池内に異常がないかの巡視も行っています。



ゲートの点検



流木・ゴミの除去



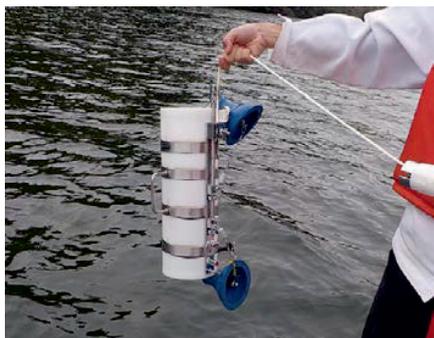
貯水池内の巡視

ダム周辺の調査・点検

貯水池内の水質や水温などを調査し、異常がないかを調べます。また、貯水池内に堆積した土砂の量を調べたり、ダムが出来たことによる環境の変化を把握するため定期的に環境調査を行っています。



堆砂測量



水質調査

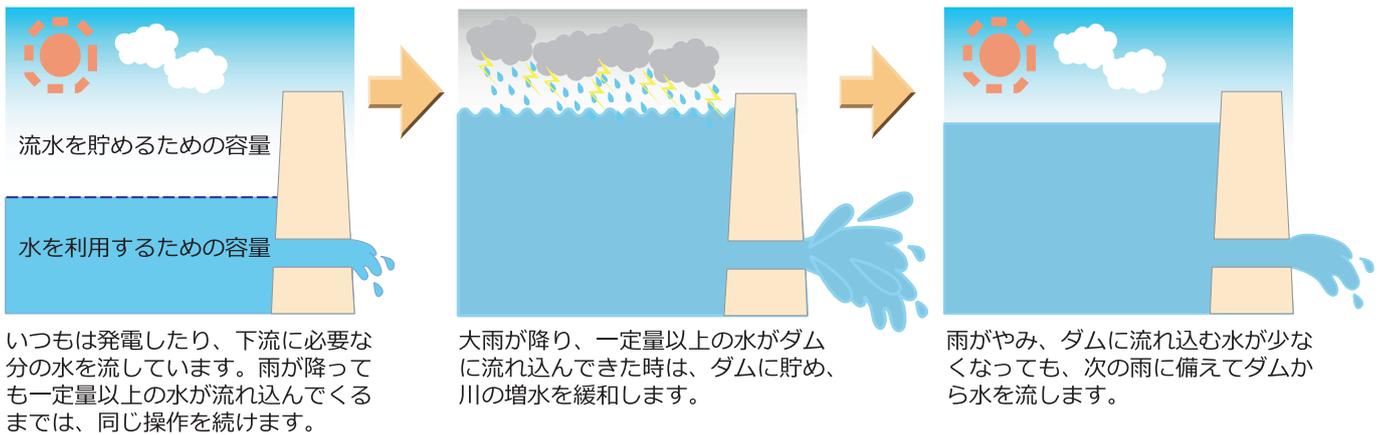


環境調査

竜門ダムの機能と効果 暮らしを守る（洪水調節）

竜門ダムは、菊池川水系の洪水調節施設として計画されたもので、ダム地点の計画高水流量 540 m³/sのうち440 m³/sを貯めて100 m³/sを流すことにより、下流の迫間川及び菊池川沿川の洪水被害の防止、軽減を図っています。

■洪水調節のしくみ



■洪水調節の操作

①流入量が25m³/sを超過

→「常用洪水吐き（コンジットゲート）」にて放流
※流入量が100 m³/sを超えた時点で洪水調節開始

②貯水位が平常時最高貯水位（EL.274.5m）を超過

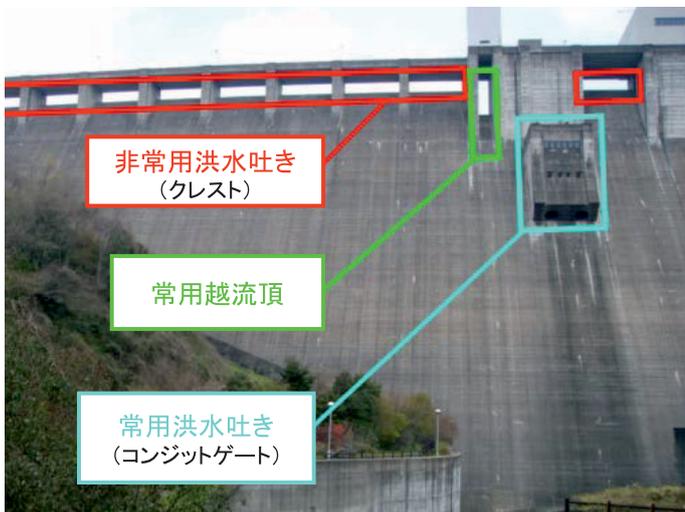
→常用越流頂〔自然越流〕（最大100 m³/s放流）
※常用越流頂放流量の増加に合わせ、総放流量が100 m³/sを超過しないよう常用洪水吐き放流量を減量

③洪水時最高水位(EL.281.0m)を超過

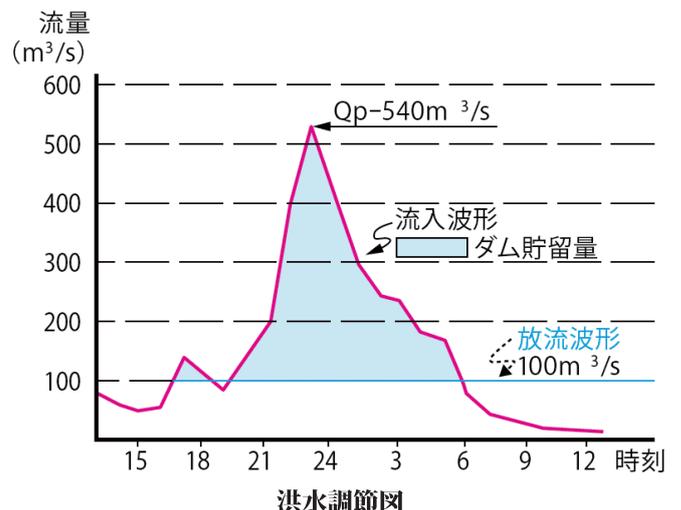
→非常用洪水吐き越流
常用越流頂と非常用洪水吐きからの自然越流開始



平成30年5月の放流状況



竜門ダムの施設



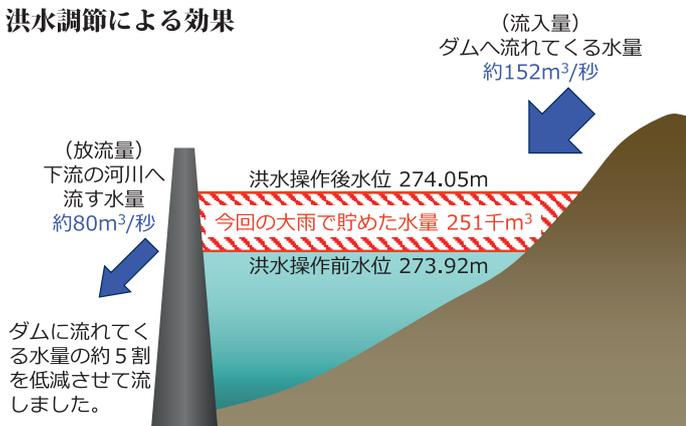
■主な洪水調節の実績と効果

平成24年7月九州北部豪雨

7月14日7時27分より竜門ダムへ流れてくる水量の一部を竜門ダムへ貯めて、下流の河川へ流す水量を最大で**約5割低減**させる操作を実施しました。
この操作により、ダム下流の隈府水位観測所において今回の大雨によって河川の**最高水位を12cm低下**させたと推測されます。



洪水調節による効果



隈府水位観測所地点 水位比較図 【竜門ダムにおける水位低減効果(最大)】

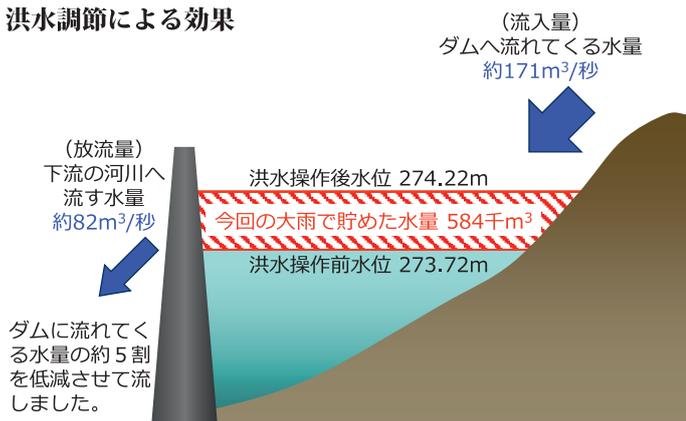


平成28年6月梅雨前線豪雨

6月22～23日の梅雨前線豪雨では、竜門ダムへ流れてくる水量の一部を竜門ダムへ貯め、下流の河川へ流す水量を最大で**約5割低減**させました。
この操作により、ダム下流の隈府水位観測所において、河川の水位を**最大43cm低下**※させる効果がありました。
※氾濫危険水位を氾濫注意水位まで引き下げ



洪水調節による効果



隈府水位観測所地点 水位比較図 【竜門ダムにおける水位低減効果(最大)】



■ 竜門ダム：洪水調整資料集

■ 放流状況写真



コンジットゲート放流 75m³/秒

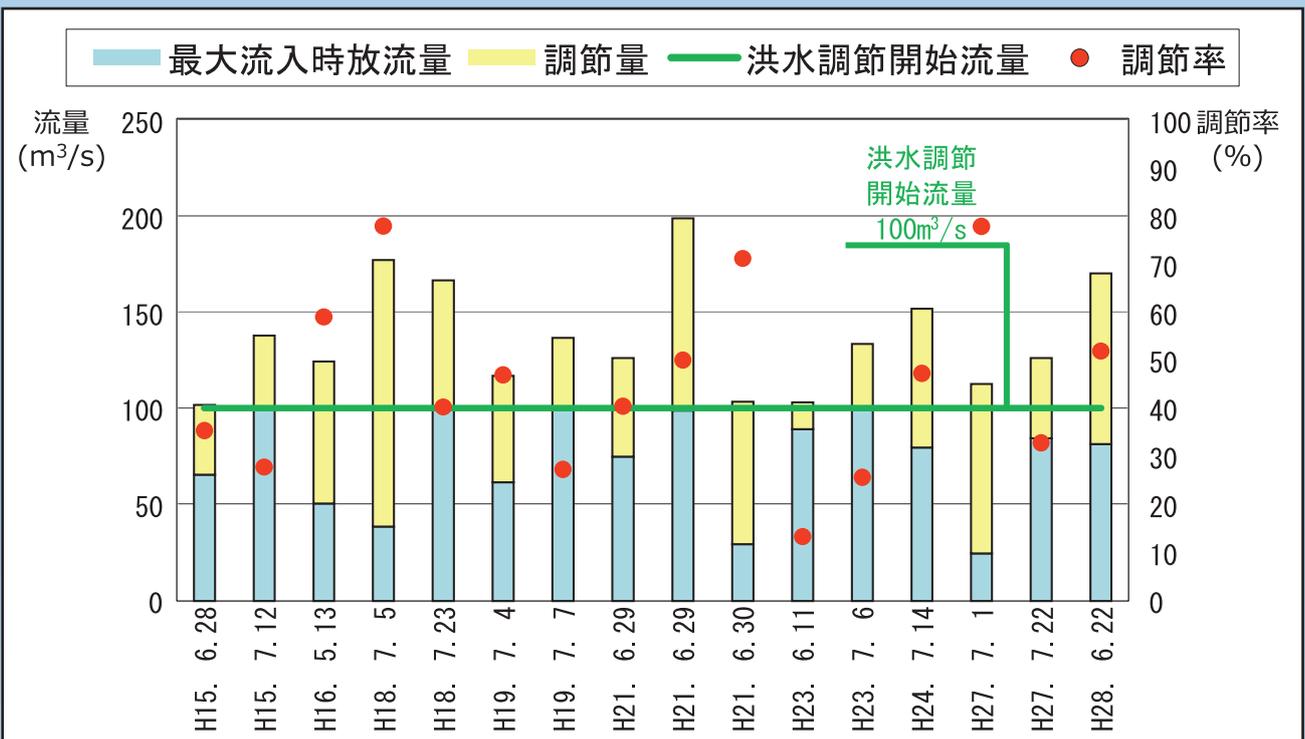


第1利水（分水槽）放流 17.2m³/秒



第2利水ゲート放流 7.8m³/秒

■ 洪水調節の実績：16回（平成14年4月管理開始～平成30年3月までの15年間の実績）



大切な水を活かす（水利用）

■かんがい用水

竜門ダムを水源として土地改良事業が実施されている菊池川中流部の「菊池台地地区」（台、花房、合志の各台地）の農地約4,680haと、菊池川下流部の「玉名平野地区」の農地約1,380haの合計約6,060haの農地に対して、かんがい用水を補給します。特に稲作が盛んなほか、スイカ・メロンの国内生産地として知られています。



菊池米



■都市用水

有明海沿岸の熊本県荒尾・長洲地区及び福岡県大牟田地区に対して、工業用水を補給します。この工業用水は、製品や施設の冷却や洗浄等に幅広く用いられています。また、熊本県荒尾市及び福岡県大牟田市に対して、水道用水を補給しています。



長洲工業地域



水道用水

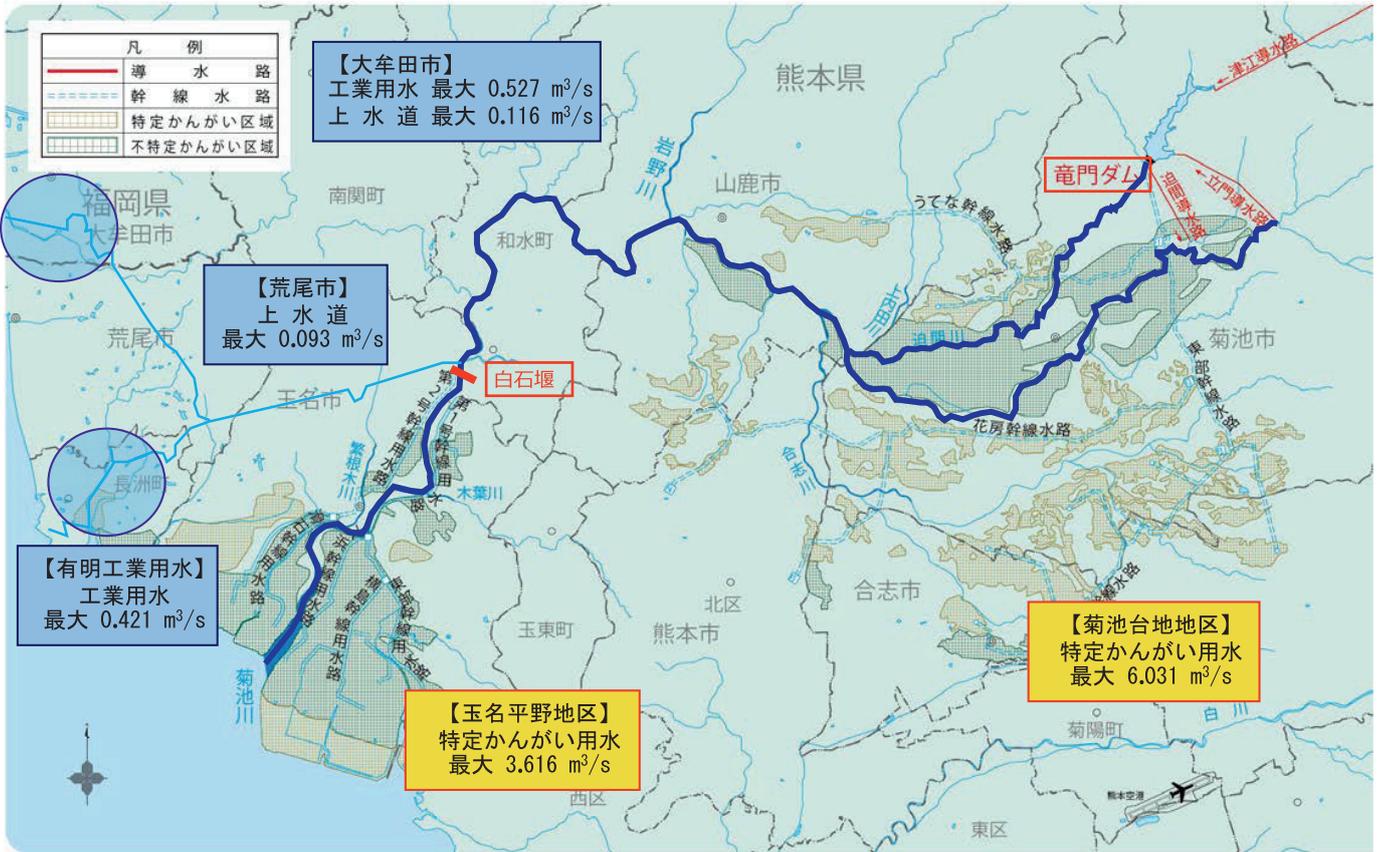


■河川環境の保全

河川の良好な自然環境を保全するために必要な水量を確保するなど、河川環境の保全を図っています。



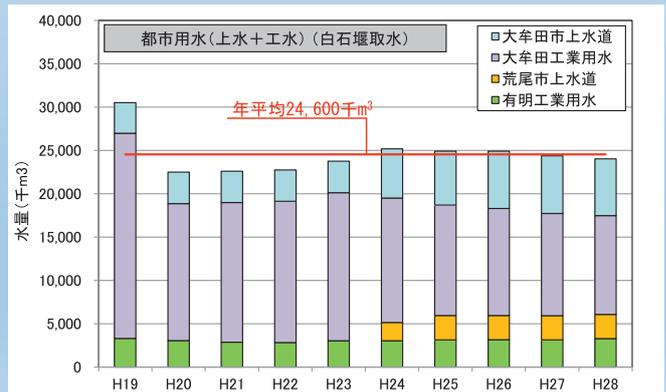
■ 利水補給（都市用水・特定かんがい用水）の全体



■ 利水補給の実績

○ダム地点において、かんがい用水（菊池台地）を年平均で約33,000千m³取水しています。

○白石堰において、かんがい用水（玉名平野）を年平均で約114,000千m³、都市用水を約25,000千m³を取水しています。



※荒尾市上水道は平成24年から取水開始

■主な渇水対策の実績と効果

平成17年渇水時

七城町農業関係者の声（H17渇水後）

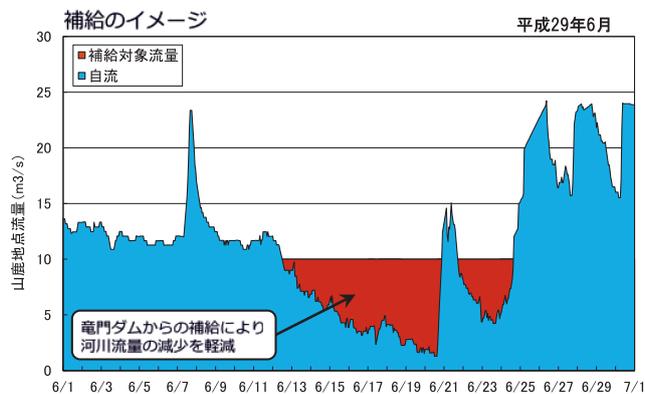
平成6年の渇水的时候は、川の水量がないため堰のこぼれ水を堰上流へポンプアップをしたり、田のそばに井戸を掘る方もいるなど、水を確保するために大変な苦勞がありました。

今年は竜門ダムからの放流によりそんな心配もなく、いつも迫間川に水が流れている事で川は汚れにくくなり、河川周辺はとてもきれいになりました。

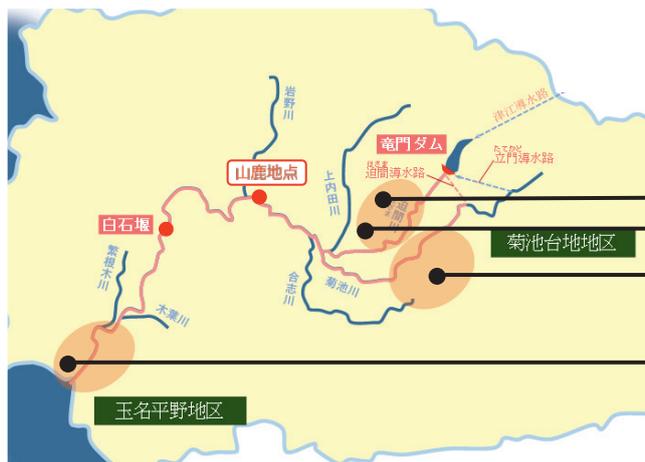
しかし、こうした恩恵を受けられるのもダムの水没地から移転した人々の犠牲があつてこそであることも忘れてはいけません。



平成29年渇水時



竜門ダムでは、山鹿地点確保流量(10m³/s)を保持するために、6月12日～24日までの13日間補給(最大補給量：8.67m³/s)を行った。



●菊池市長

田植え時期に河川の流量を確保するために休日・夜間も放流操作をしてもらいありがとうございました。

●迫間川沿川の耕作者

迫間川沿川では竜門ダムより河川に必要な確保流量が放流されるため、水不足を心配することなく営農できる。

●竜門ダム建設用地提供者

今年の水不足時には、地域の多くの農業関係者から「竜門ダムからの水の補給があつたから、無事に農耕ができています」との感謝の声を聞いた。

●菊池川沿川の耕作者

今年是小雨のため、代掻き・田植え時期の農業用水の取水が出来るか危惧していたが、迫間導水により竜門ダムから菊池川への補給で、例年どおり代掻き・田植えを終えることができました。

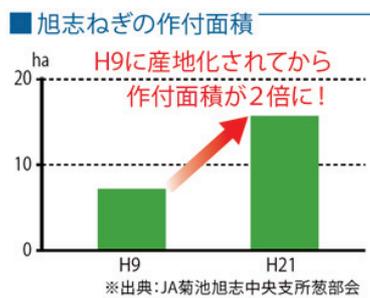
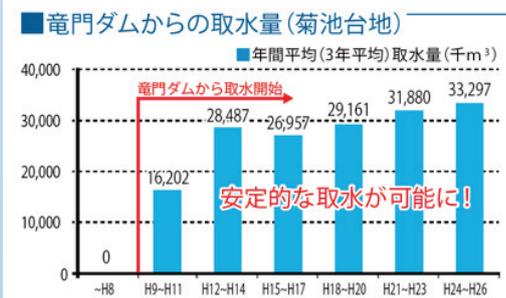
●玉名平野土地改良区

小雨により河川水が減少し、代掻き・田植え時期に白石堰から取水が出来ないのではないかと心配していたが、竜門ダムより山鹿地点の流量を確保する放流をもらったおかげで、玉名地区では例年どおり田植えを行うことができました。

■利水補給の効果と地域の声 ～ 菊池台地 ～

Topics

菊池台地は、地表水に乏しく水利条件が極めて悪いため、一部は地下水を利用していたものの、大部分は天水に頼っていたため干害が頻繁に発生していました。竜門ダム完成に伴い、安定的な水の供給が可能となり、ダム事業に併せて土地改良事業が実施されたことにより、飛躍的に水利用が簡便化されました。菊池台地は、日本でも有数のメロン・スイカの産地であり、経営の安定化に寄与しています。平成9年の竜門ダムからの通水開始以降、菊池郡旭志地域では、地域の振興作物として軽量で（高齢化対策）、収穫適期が長く、高収益が期待できる深ねぎが選定され、経営転換して「旭志ねぎ」が産地化されました。近年では作付け面積が2倍に増加し、農業者からは安定的な水の供給に対して、喜びの声が寄せられています。



竜門ダム供給前のかんがい状況

地下水ポンプ使用の様子



水の運搬の様子



竜門ダムができる前は、地下水をポンプでくみ上げたり、川から水をトラックで運んでいました。

竜門ダム供給後のかんがい状況

現在の送水の様子①



現在の送水の様子②



現在は竜門ダムからの送水により、蛇口を捻るだけで、水を利用することができます。

■ 菊池台地からの声

Topics

省力化が可能となり高品質の作物ができるようになりました。

鹿央地区かん排（S62～H11）



前田博智さん（山鹿市鹿央町）

スイカとメロンを合わせて5ha作っています。菊池台地の水が来る前は、ボーリングを掘ってパイプでかん水するか、川から2000ℓのタンクをトラックで運び水をかけていました。水をかけるのが1日の仕事でしたが、今は給水栓をひねると水が流れるので作業面積を増やすことができました。また、菊池台地の水が来て大型施設でスイカの作付けできるようになり、玉太りも良くなり品質が向上して収益も上がりました。

今後は、大型耐候性ハウスを立てて9月10月の作付けができるようにしたいです。

多様な農業の展開が可能になりました。

植木地区かん排（H3～H11）



高宗徳雄さん（熊本市北区植木町）

スイカ40a、ナス15aを作付けしています。以前はボーリングでかん水していましたが、順番待ちで自分が水をかけたいときに水が使えませんでした。現在は、スイカ、メロンの作付けが減少して、生り物（ナス、キュウリ等）が増えてきました。ナス、キュウリ等には年中水をかける必要があり水を使う量が増えてきました。

菊池台地の受益地では、農地が空けばすぐ借り手が見つかるので休耕地はほとんどありません。新規利用者は町内の方がほとんどですが、企業の受託で町外から参入される方もいます。

新規利用者は、水の使用ルールが分からないので、先日約15名の新規利用者を集めて勉強会を開催しました。将来は新規利用者にも水管理を担って頂きたいです。

地区内のどこでも自由に水が使えるようになりました。

合志地区畑総（H10～H19）



吉岡敏広さん（合志市竹迫）

水稲と畜産の複合経営で、水田で6ha程度作付けしています。菊池台地の水が来るまではポンプを使っていました。ポンプの水は低いところで使えば高いところはほとんど水が出ませんでした。菊池台地の水はどこでも自由に使えます。元々飼料作物や露地野菜などしかできなかった農地が、色々な作物が作れるようになり農地の利用が広がりました。

農家は菊池台地の水に感謝しています。水が無いと米も野菜も作れません、畑が空けばよそから農家に来て借りています。菊池台地の受益地以外では水が無いので借り手がいません。菊池台地の農業を支える農業用水に感謝の日を作りたいです。

■ 菊池台地からの声

Topics

水稲をメインに規模拡大ができました。

花房中央地区県ぼ (H7~H19)



原誠一さん (菊池市七城町)

今までは、ポンプの水を使っていましたが、水が足りなくて水回り当番が大変でした。菊池台地の水ができて一番良かったことは、水稲をメインで大規模にやれるようになったことです。全部で10ha栽培していますが、開田部分(菊池台地の受益地)の7haは、パイプラインの水で他の水源に比べて草刈り後の水路の目詰まりもなく管理が簡単です。

雑穀米として、赤・黒・緑・もち米等を無農薬で少しずつ時期を変えて作っています。消費者を呼んで田植えや稲刈りのイベントもやっています。皆さんも体験しませんか。雑穀はメロンドームや通販で販売しています。

潤沢に水を使えるようになりました。

うてな台地地区畑総 (S58~H12)



上野英二さん (菊池市)

以前は地下水をポンプアップして台地のてっぺんのため池に落として水を使っていました。その時は電気代等に年間10a15,000円程度かかっていましたが、それが4,500円で済むようになりました。また、ため池の水は供給量が不足して潤沢に使えませんでした。ゴボウの作付けを始めて10数年になります。冬ゴボウの種まきはWC刈り取り後、9月頃ですが、その頃干天が続くと発芽が悪いです。そのとき菊池台地の水が活躍します。

末端施設は多面的機能直接支払い制度で維持管理しています。この制度があるから何とかやっていけます。共同作業に日当が出るのでみんな出てくるようになりました。長寿命化の整備は農家個人では行えません。これからも地域全体で菊池台地の水を使っていきたいです。

スプリンクラーの効果は絶大です。

護川地区畑総 (S54~H15)



中山繁雄さん (菊池市旭志)

8haぐらい茶園を経営し、2haをスプリンクラーで菊池台地の水を利用しています。春の新芽を出すために秋から茶の木にスプリンクラーを使用していますが、秋から使用すると新芽の出るのが早くなります。茶の場合はどれだけ新芽を早い時期に摘み出荷できるかで値段が違います。スプリンクラーの防霜により、初めて凍った芽を見たときは心配しました。しかし凍ることで0℃以下に下がらないから、秋の芽を冬場に取っておくことができます。また、影響が特に大きい春先に凍害を回避出来ることも重要です。

茶に発生したクワシロカイガラムシは、散水による防除効果があり、農薬の散布回数を減らすことが出来ました。防霜ファンは設置費用や電気代がかかりますが、スプリンクラーは水代1,500円/10aで済むので経費が安くなりました。

「さえみどり」の防霜には、スプリンクラーが大変効果があるということがわかりました。防霜ファンでは防ぎきれない霜でもスプリンクラーでは防ぐことが出来ました、菊池台地の受益地で作付けを増やしたいです。

■ 菊池台地からの声

Topics

以前はタンクで水を運ぶのが1日の仕事でした。

大津北部地区畑総 (S63~H22)



永田文広さん (大津町)

にんじんとかんしょを3ha栽培しています。9月初めのにんじんの芽だしのときに菊池台地の水をチューブかん水しています。菊池台地の水が来る前は、ポンプアップした水を1200ℓのタンクに積んで何往復もしてそれが1日の農作業でした。今はチューブからの漏水がないか見に行けば良いです。芽だしのときは、雨が地面をたたきつけると堅くなるので、かん水チューブで湿気があって地面を柔らかくするために水をかけています。

水が来るようになって、他所からも会社や農家が作りに来るようになり、新たに貸してくれる土地は、少なくなっています。菊池台地の受益地には耕作放棄地はありません。土地が出ればすぐ借り手が見つきます。

施設管理が容易です。

山鹿東部地区かん排 (H4~H11)



農事組合都座立山農園 代表理事
立山和宏さん (山鹿市)

米、麦、大豆、そば、大麦若葉、葉タバコ、施設園芸等35haを経営しています。年3回から4回転させる土地利用型農業を展開しています。菊池台地の受益地は蒲生団地の約4haで、WC5を植付け刈り取り後、大麦若葉を2回作っています。菊池台地の水は、パイプラインなので早めに植え付けることができるので、それだけ農作業の分散ができます。

水田は水路や田んぼにゴミが詰まっていないか見回る必要がありますが、菊池台地の受益地では給水栓をひねるだけで水がくるので、そのような作業の必要はないので省力化につながります。米が一番売り上げが上がるので、菊池台地の受益地で作りたいのですが土地が出てきません。

苗床は、菊池台地の水でチューブかん水しています。水路からの通常の苗床よりも苗が均一に育ち品質の良い苗が作れます。

農地まで1時間かかるが水のあるメリットは大きい。

鹿央地区かん排 (S62~H11)



株式会社春口農園 代表取締役
春口裕一さん (福岡県八女市)

山鹿市鹿央町に露地で10ha、地元(福岡県八女市)でハウスを4ha耕作しています。鹿央に来たきっかけは、JA鹿本の農地保有合理化事業を紹介されたからです。ネギ栽培は水をかけたい時に使えて水没しない土地が理想です。ネギは一年間に4~5回作りますが、かん水は植付け直後と夏場に行きます。ネギは気温が上がりすぎると成長が阻害されるため、夕方にかん水して夜の成長を促します。夏場はそうめんなどでネギの需要が多いのですが、梅雨時期の水没や夏の高温で栽培が少ないので値段が高くなります。菊池台地の受益地はネギ作りにベストの農地です。

自宅から40分~1時間かかります。それを差し引いても水がある方が良いです。菊池台地の受益地は参入希望が多く、新たに貸してもらえない農地は、ほとんどありません。

2. 竜門ダム工事のあゆみ

年 月 日	概 要
昭和 39 年度	予備調査開始「建設省菊池川工事事務所」。
昭和 43.11. 5	建設省並びに熊本県から水没関係者に対し、ダム建設の計画について説明。
昭和 44. 1.16	「竜門ダム建設絶対反対期成会」結成。
昭和 45 年度	実施計画調査開始。
昭和 45. 4.26	建設省並びに熊本県から水没関係者に対し、ダム建設計画および補償関係について説明。
昭和 45. 5. 1	建設省竜門ダム調査事務所発足。津江分水について大分県に協力要請。
昭和 45. 7.12	「竜門ダム建設絶対反対期成会」解散。「竜門ダム対策委員会」と改称。
昭和 46. 1.16	「竜門ダム対策委員会」が解散。「竜門ダム水没対策協議会」と改称。
昭和 46. 2. 9	ダム周辺地区住民で組織する「竜門ダム対策委員会」発足。
昭和 47. 5.10	「建設省竜門ダム調査事務所」を「建設省竜門ダム工事事務所」と改称。
昭和 47. 5.23	津江分水計画等について、大分県の上津江、中津江両村に説明。
昭和 47. 7.22	水没者の総会において、一筆測量等調査受入れを決議。
昭和 47.10 ～ 48. 8.31	水没地一筆測量および物件調査。
昭和 48. 6.15	工事用道路着工。
昭和 49. 7.20	水源地域対策特別措置法（以下「水特法」という）に基づく指定ダムとして竜門ダムを指定。
昭和 52. 3 ～ 52. 5	立門分水計画について、菊池、迫間両河川の受益者（井堰地区の住民）を対象に説明会開催。
昭和 52.10. 6	大分県日田郡中津江村の臨時議会において、竜門ダムへの分水に対し「絶対反対する」との決議。
昭和 53. 7. 1	中津江村民に対し、津江分水計画について説明会を開催。
昭和 53. 8.23	中津江村執行部および村議会に対し、竜門ダムの基本計画および津江分水について説明会を開催。
昭和 53. 9.14	大分県日田郡中津江、上津江両村津江分水に合意。
昭和 53.10. 5	大分県議会において「竜門ダムの建設に関する基本計画（案）」の同意決議。
昭和 54. 1.28	「竜門ダム建設に伴う損失補償基準（案）」を発表。
昭和 54. 2.20	水没協、昭和 54. 1.28発表の「損失補償基準（案）」を一括返上。
昭和 54. 5.29	当年度実施予定の事業計画申し入れに対し、竜門ダム水没対策協議会から拒否される。
昭和 54. 8.18	「竜門ダムの建設に関する基本計画」告示。
昭和 54.12. 1	水没協の臨時総会において工事等のストップ解除を認め補償交渉のテーブルにつくことを決議。
昭和 55. 4.18	水没協の定例総会において損失補償基準の交渉のための代表会（25名で構成）が設置される。
昭和 56.12. 8	損失補償基準妥結。
昭和 57. 3.10	水特法に基づく水源地域として「熊本県菊池市大字班蛇口、同市大字龍門」を指定。
昭和 57. 3.27	水特法に基づく整備計画を決定。
昭和 58. 4. 1	水没地住民による集団移転地（玉祥寺、松山原）における「村づくり世話人会」が発足。
昭和 60. 3.25	水没87世帯の補償契約完了。
昭和 61. 3.31	水没者移転完了。
昭和 62. 6.11	「竜門ダムの建設に関する基本計画」の変更告示。

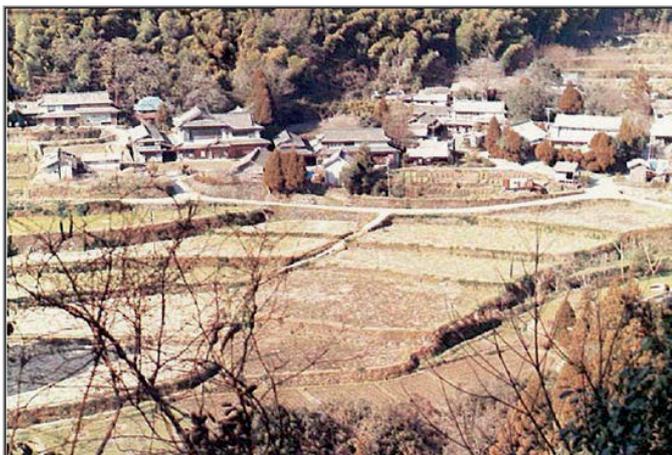
年 月 日	概 要
昭和 62. 9.26	竜門ダム本体工事着工。
昭和 62. 9.26	津江導水路都留工区、鳳来工区着工。
昭和 62.10.28	竜門ダム関係鉱区禁止地域指定。
昭和 63.11.28	ダムサイト転流開始。
平成 2. 3.14	立門導水路大野工区着工。
平成 2. 3.20	竜門ダム本体コンクリート打設開始。
平成 2. 4.26	菊池川漁業補償を妥結。
平成 2. 5.24	竜門ダム定礎式。
平成 2. 9.28	津江導水路川原工区着工。
平成 3.10.17	立門導水路立門工区、立門分水堰着工。
平成 3.12.20	津江導水路分水口工区着工。
平成 4. 3.18	津江分水堰着工。
平成 4.11.18	竜門ダム本体コンクリート打設完了。
平成 5. 4.12	「地域に開かれたダム」に指定される。
平成 5.11. 9	竜門ダムロックフィルダム部盛立開始。
平成 6.11.10	津江導水路鳳来工区完了。
平成 7. 2.10	立門導水路貫通。
平成 7. 3.10	竜門ダムロックフィルダム部盛立完了。
平成 7. 6.26	津江分水堰完成。
平成 7.10.22	付替県道（鯛生～菊池線）全線開通。
平成 9. 2.26	立門導水路、立門分水堰完成。
平成 9. 3. 4	試験湛水開始。
平成 10. 2. 4	迫間導水路着工。
平成 10. 4.29	洪水時最高水位到達。
平成 11. 4. 6	竜門ダム展示資料室「ミュウじあむ」が開館。
平成 11. 9.11 ～ 11. 9.14	竜門ダムにおいて「くまもと未来国体ボート競技大会」開催。
平成 12. 1.18	試験湛水完了。
平成 12. 5.26	迫間導水路貫通。
平成 12. 5.31	津江導水路貫通。
平成 13. 7.31	迫間導水路完成。
平成 13. 8. 9 ～ 13. 8.12	竜門ダムにおいて「ひのくに新世紀総体（インターハイ）ボート競技大会」開催。
平成 14. 3.31	竜門ダム建設完了。
平成 14. 4. 1	管理体制移行。

工事前の龍門地域

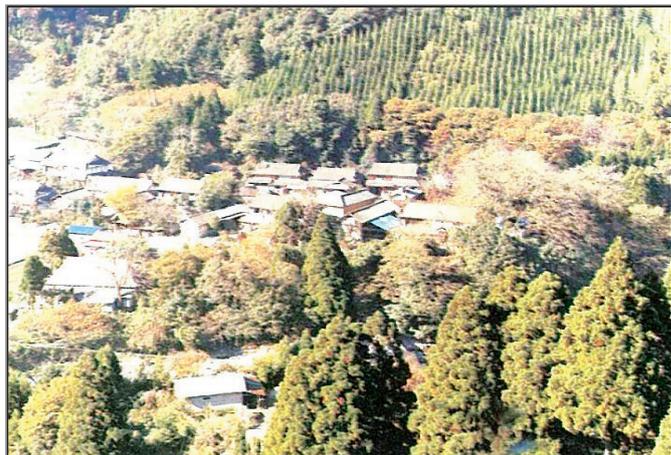
昭和39年度～ 予備調査開始
昭和45年度～ 実施計画調査開始

龍門ダムの工事が開始される前までの龍門地区の様子です。
かつては、自然豊かな谷間に田園風景が広がる地域でした。

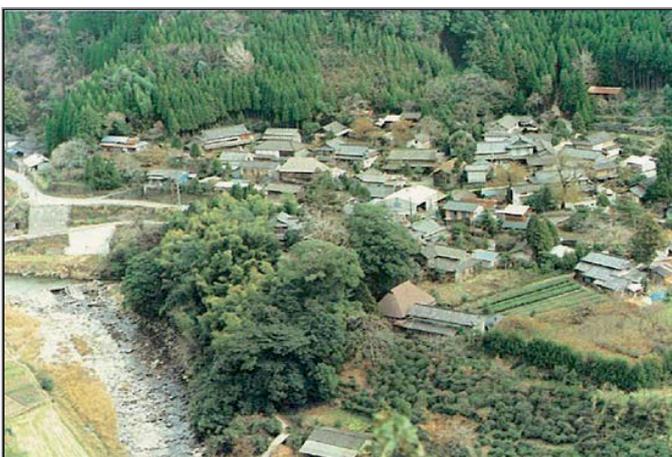
上半尺地区



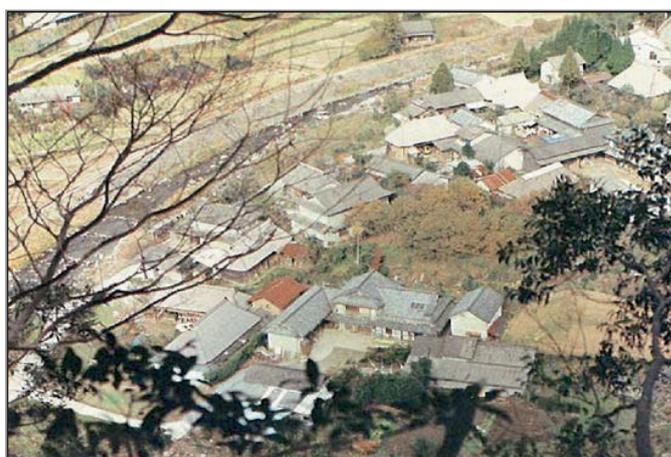
下半尺地区



中山地区



中須地区



ダム上流よりダムサイトを望む



ダム下流よりダムサイトを望む



遊蛇口地区への移転

昭和43.11. 5 水没関係者に対し、ダム建設について説明
 昭和56.12. 8 損失補償基準妥結
 昭和61. 3.31 水没者移転完了

ダムの建設のため、水没地域の関係者の方々には、現在の菊池市の遊蛇口地区へ移転していただく運びとなりました。

当時、ダム建設予定地の龍門地区には菅原神社という、神社がありましたが、関係者の方々とともに、遊蛇口地区へ遷っていただきました。

移転前の遊蛇口地区



移転前の遊蛇口地区



造営中の遊蛇口菅原神社



移転後の遊蛇口地区



昭和61年 遊蛇口遷宮祭



平成27年 遊蛇口遷宮遷座祭



竜門ダム本体工事

昭和62. 9.26	本体工事着工
平成 2. 3.20~平成 4.11.18	本体コンクリート打設
平成 5.11. 9~平成 7. 3.10	ロックフィルダム部盛立

竜門ダムは、重力式コンクリートダムとロックフィルダムがセパレートウォールを介して接する複合ダムです。重力式コンクリートダム部の施工はRCD工法を採用しました。1mリフトのRCD工法によるコンクリート打設は、竜門ダムが日本で初めて行いました。

工事用道路



本体工事 全景



重力式コンクリート部 打設状況



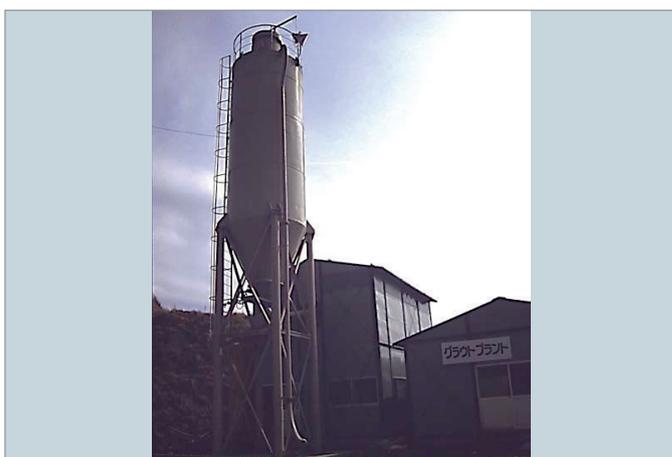
重力式コンクリート部 打設50万m³達成



ロックフィルダム部盛立状況



グラウトプラント



津江導水路

昭和 62. 9.26～ 津江導水路工事

津江導水路は、大分県の下笠ダムの上流より竜門ダムへ送水する計画のために作られました。このような県境を越えた広域的な導水は、全国的に見ても珍しく竜門ダムの大きな特徴の一つとなっています。

川原工区 工事状況



都留工区 工事状況



鳳来工区 コンクリート打設状況



取水堰 工事状況



津江導水路 貫通式典



導水路 完成写真



立門導水路

平成 2. 3.14～平成 9. 2.26 立門導水路工事
立門分水堰工事

立門導水路は、菊池川上流の立門地区より竜門ダムへ菊池川の水を送水するための導水路です。立門地区に取水用の堰を設置し、流量に余裕があるときに竜門ダムへ引き込み貯水します。

立門導水路 記念碑



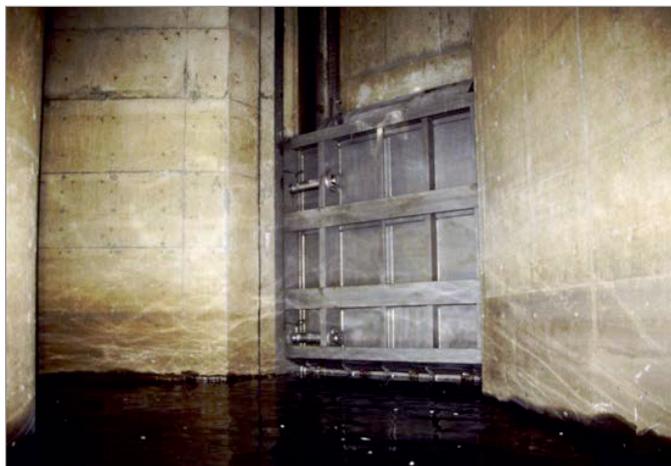
大野工区 工事状況



立門堰 工事状況



立門堰 制水ゲート



立門導水路 貫通式典



導水路 完成写真



迫間導水路

平成10. 2. 4～平成13. 7.31 迫間導水路工事
迫間分水堰工事

迫間導水路は、竜門ダムに貯めた水を菊池川へ流すための導水路です。
菊池川本川の環境の保全に必要な流量を確保します。

トンネルボーリングマシン搬入



スチールセグメント



坑内状況



切羽状況



迫間導水路 貫通式典



導水路 完成写真



式典・イベント①

竜門ダムでは、各工事の節目に式典を催しました。

着工式



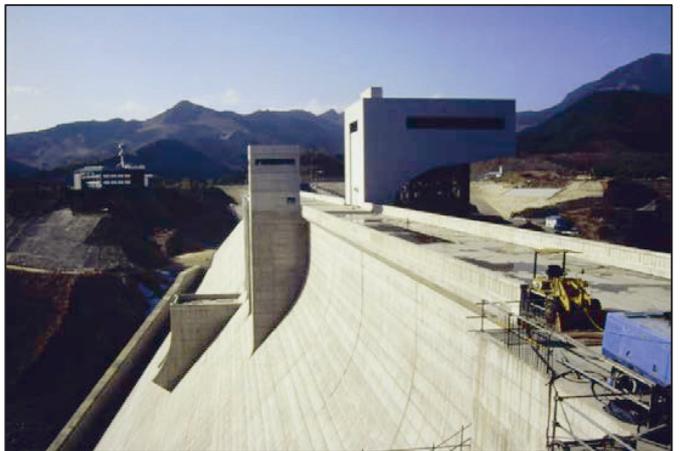
定礎式



重力式コンクリートダム部 打設完了式



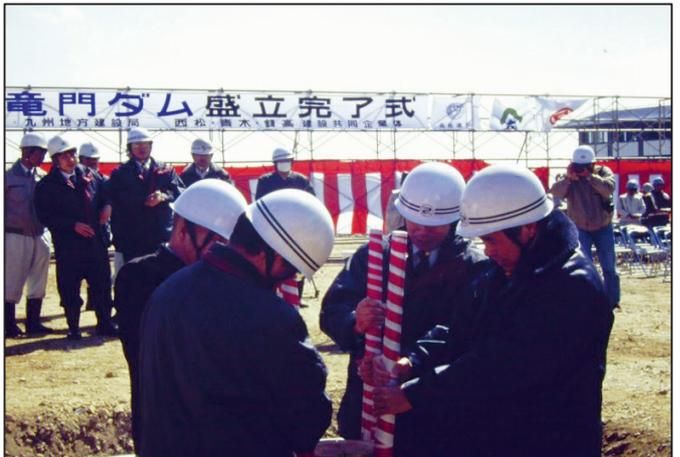
本体完成間近



ロックフィルダム部 盛立開始式



ロックフィルダム部 盛立完了式



式典・イベント②

竜門ダムでは、各工事の節目に式典を催しました。

付替県道開通式



湛水式



管理棟完成



展示資料室 会館式



洪水時最高水位到達（試験湛水）



竜門ダム工事事務所閉庁に伴う感謝の集い



3. 竜門ダムの利活用 四季折々に楽しめるダム

竜門ダムでは、毎年7月に竜門ダムフェスタ、11月頃に龍門ふるさとまつりなど様々なイベントが開催され、多くの家族連れで賑わいます。

ダム湖では、全日本ジュニアボート選手権大会をはじめ様々なボート大会が催されており、広場を利用してグラウンドゴルフ大会も盛んに行われています。また、H26年度にダム壁面に映像を映すデジタル掛け軸も好評でした。



ボート大会



竜門ダムフェスタ(イベント開催状況)



竜門ダムフェスタ(魚のつかみどり)

春

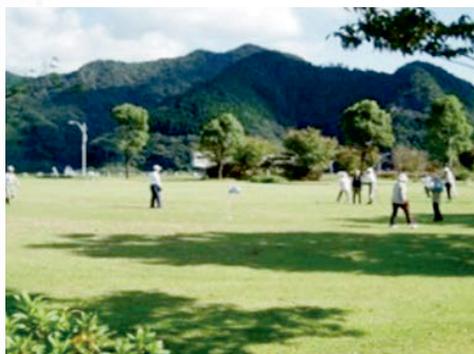
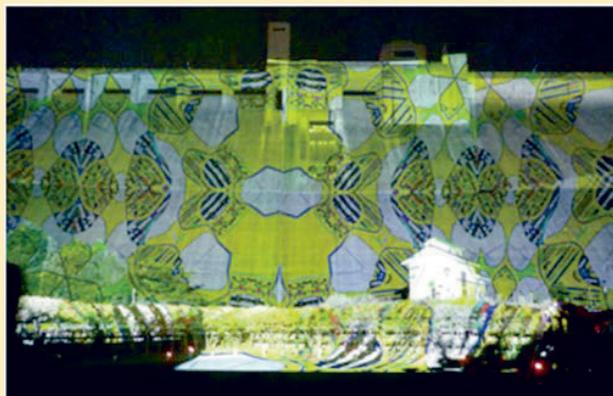
夏



ドッグラン



デジタル掛け軸



グラウンドゴルフ



龍門ふるさとまつり



竜門ダムウォーキング



かぜ ひろば
風の広場
Kaze-no-Hiroba

はな ひろば
花の広場
Hana-no-Hiroba

とり ひろば
鳥の広場
Tori-no-Hiroba

あおぞら
青空
ギャラリー
Aozora Gallery

秋

冬



ワカサギ釣り

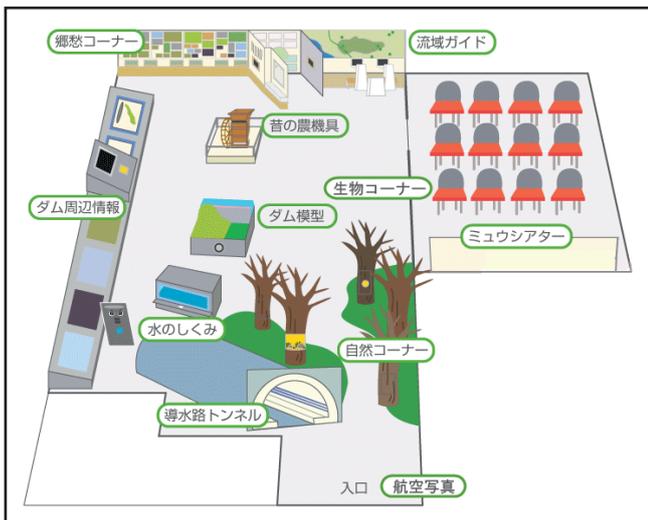
ボートコース

竜門ダムには、日本ボート協会公認2000m常設コースがあります。競技関係者からは「風なし、波なし、流れなし」と言われるほどの人気を誇っています。平成11年の「くまもと未来国体」にも利用されました。



防災情報施設（ミュウじあむ）

竜門ダム防災情報施設は、竜門ダムに関する情報が盛りだくさん。防災に関する情報や、竜門ダムの模型や写真、自然コーナーやミュウシアターなど、来て、見て竜門ダムや地域のことがわかります。



ダムのおなか探検（竜門ダム見学会）

竜門ダム管理支所では、ダムのおなか探検（竜門ダム見学会）を実施しています。竜門ダムに関するビデオや模型を使用した学習と、ダムのおなか探検（ダム点検用通路の見学）ができ、当日は竜門ダム管理支所の職員がダムの役割について説明します。

ダムのおなか探検（竜門ダム見学会）について

【実施日】

- ・ 年末年始を除く平日

【見学時間】

- ・ 約1時間

【申込方法】

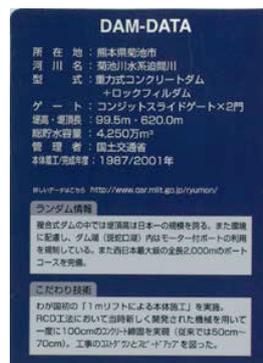
- ・ 平日の午前10時から午後4時までに電話にてお申し込みください。
 - ・ 年末年始、土日、祝祭日は閉庁のため予約受付ができません。
- ※大雨や洪水時には見学会を中止する場合がありますのでご了承下さい。



竜門ダム見学会
紹介ページ



おなか探検の様子



■ダムカード

竜門ダムでは、ダムのことをより知っていただくために、ダムカードを配布しております。ご希望の方は、竜門ダム管理支所までお越しください。

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 菊池川河川事務所 竜門ダム管理支所

〒861-1672 熊本県菊池市龍門870番地

電話：0968-27-1120

FAX：0968-27-1130

ホームページ：http://www.qsr.milt.go.jp/ryumon/



竜門ダム
ホームページ

竜門ダム 15周年記念事業



2017

1. 竜門ダムフェスタ・感謝祭



平成29年7月23日(日曜)
 竜門ダム エントランス広場
 及び 斑蛇口湖一帯



記念式典



菊池川が繋ぐ、人々の交流

記念植樹



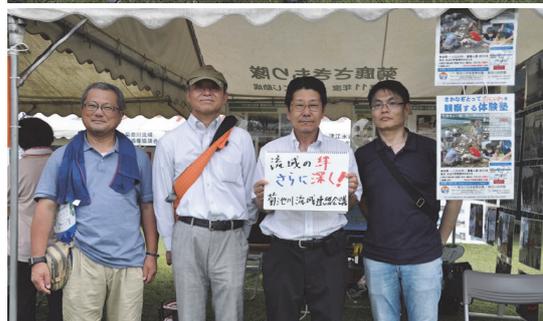
会場／ステージ／イベント



恵み 感謝 エリア
 地域の特産物



絆 エリア 交流ステーション



竜門ダムフェスタ・感謝祭 当日の様子

- 平成29年7月23日、熊本県菊池市の竜門ダムにおいて、管理運用開始から15年目を記念して「2017竜門ダムフェスタ・感謝祭」を開催しました。
- 式典には、用地提供者、導水路を通じた地域の皆様、受益地域の皆様や地元の小学生など約100人に出席いただきました。
- 来賓の方々より、菊池川流域内外に水の恵みや治水効果を与えてくれる竜門ダムとその関係者の皆様へ“感謝の言葉”をいただきました。
- イベント全体では、約1,500人が来場（例年の約3倍）、流域の特産物を持ち寄った特産市や、ダムのおなか探検、ヤマメのつかみ取り、木工教室、ステージイベントなど、どのイベントも未来を担う子供達の笑顔であふれ、大盛況のうちに終わることができました。



菊池川改修完遂期成同盟会会長 兼 山鹿市長
中嶋 憲正氏



菊池市長 江頭 実氏

竜門ダムの治水効果や、利水による恩恵は絶大です。
 今後は、日本遺産認定を受けた菊池川のすばらしさを、国内外へ発信していきたい。

安全、経済面に恩恵を与える竜門ダムを誇りに思っています。
 地方創生には連携が不可欠。
 感謝祭を契機に、関係する市町と心をひとつにしたい。



来賓者による植樹の記念撮影



恵み特産市

2017竜門ダムフェスタ・感謝祭 実行委員会

主催 2017竜門ダムフェスタ・感謝祭実行委員会
斑蛇口湖活性化推進協議会
菊池川流域連携会議（河川協力団体）
菊池川改修完遂期成同盟会
国土交通省菊池川河川事務所

後援 菊池台地用水土地改良区
玉名平野土地改良区
福岡県企業局
荒尾市企業局
大牟田市企業局



竜門ダムイメージキャラクター
「ミュウ」

竜門ダムフェスタ 15周年感謝祭

参加無料

7/23日

10:00～16:00

場所 / 竜門ダムエントランス広場及び斑蛇口湖一帯
小雨決行・雨天中止

今年のはアツイ!!
イベント盛り沢山。

主催 / 2017竜門ダムフェスタ・感謝祭 実行委員会
斑蛇口湖活性化推進協議会 菊池川流域連携会議(河川協力団体) 菊池川改修完遂期成同盟会 国土交通省 菊池川河川事務所
後援 / 菊池台地用水土地改良区 玉名平野土地改良区 熊本県企業局 福岡県企業局 荒尾市企業局 大牟田市企業局

TEL.0968-25-7241

シャトルバス運行
当日は9:30より菊池管理広場から運行の無料シャトルバスを運行します。乗り場・菊池管理広場

イベント内容等詳しくは裏面に!!

2017竜門ダムフェスタ・感謝祭 パンフレット
(竜門倶楽部)

恵みに感謝、未来への絆

2017 竜門ダム 15周年 フェスタ・感謝祭

ご協力ありがとうございました。

平成29年7月23日(日曜)
竜門ダム エントランス広場 及び 斑蛇口湖一帯

2017 竜門ダムフェスタ・感謝祭 実行委員会

2017竜門ダムフェスタ・感謝祭 まとめ資料
(菊池川河川事務所 竜門ダム管理支所)

2017竜門ダムフェスタ・感謝祭 まとめ資料

2017竜門ダムフェスタ・感謝祭の当日の様子を動画にしました。
左のQRコードのリンク先に掲載しております。
また、当日に使用した動画なども掲載しておりますので、あわせてご覧ください。



2. コラボレーション ダムカレー

竜門ダムに近接した交流施設「RonRonKan（ロンロン館）」と共同で「竜門ダムカレー」を開発し、平成29年7月より販売を開始しました。



Topics

■ダムカレー

ダムカレーは、ダムをモチーフにしたカレーです。お米を堰堤、カレールーを貯水池として表現したカレーです。2009年頃から全国的に増え始めました。

「竜門ダムカレー」は、特徴であるコンクリートダムとロックフィルダムを、菊池米と五穀米でかたどり、豊かな自然をサラダで表現し、その上には特産である「菊芋」のチップスをちらしています。また、ボート競技が盛んなダム湖（斑蛇口湖）の噴水をえのき巻で、ボートの特産である水田ごぼうの素揚げで表現しました。

【RonRonKan 営業時間：毎週 月・金・土・日 11時～15時】



竜門ダムナイト



3月に開催された菊池桜マラソンや2018くまファンランに合わせ期間限定でダム堤体のライトアップを開催しました。

【平成30年3月19日（月）～平成30年3月30日（金）】

■竜門ダムナイト

ダムファン必見の、普段見る事の出来ないディープな竜門ダムを楽しむ事が出来ます。今後も、地域のイベントに合わせて開催します。



ダムナイト

■菊池桜マラソン

菊池氏桜マラソンとは、毎年3月に行われる市民マラソン大会です。今年にくまモンと一緒に走るくまファンランも同時に開催されました。



菊池桜マラソン・くまファンラン

Topics

3. 竜門ダム工事事務所 歴代所長意見交換会



平成30年2月27日撮影

日時：平成30年2月27日、28日
会場：竜門ダム管理支所



初代 竜門ダム工事事務所長

おの みつし
小野 満司

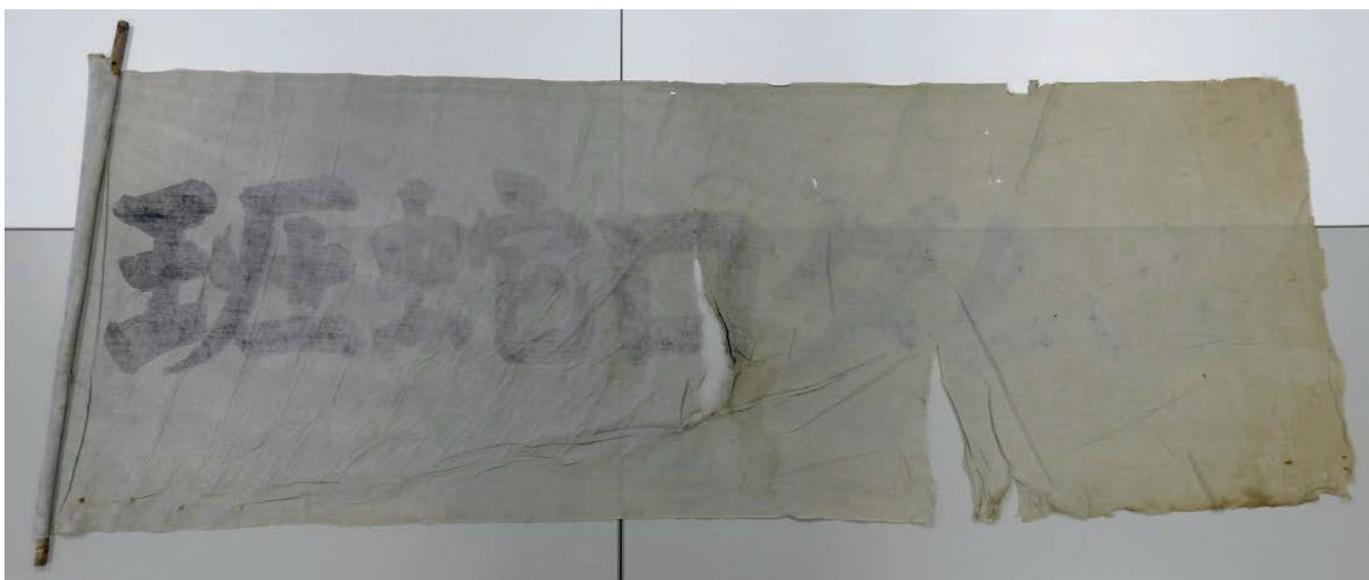
在任期間：昭和45年5月～昭和50年3月

地元情勢の把握と地元代表者の統率力

赴任後はまず、地域情勢を把握することが大事でした。その上で、基本計画の策定、損失補償基準妥結を目指さなければなりませんでした。

当初、地元はダム反対でしたが、地元と折衝を行い昭和45年7月には、水没関係者の大会を中山小学校で開催していただき、ダム反対の旗をおろしてもらいました。

事務所開設後、地元の首長や主要な方々から緑川ダム現場視察の要望があり、視察のなかで、緑川ダムの進捗、経緯、事務所の対応状況などを確認、納得されたうえで、ダム反対の旗をおろそうという話になり、「竜門ダム建設絶対反対期成会」から「竜門ダム水没対策協議会」（以降、水没協）に移行しました。その後は、水没協の会長である「上野松記」さん（以降、上野会長）の統率力が非常に大きかったです。

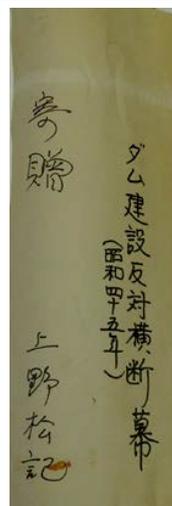


ダム建設反対横断幕 上野会長より昭和45年に寄贈

室原知幸さんのもとへ

ダムの事務所が開設される前、予備調査から、実施計画調査になるとの噂が地元に入っていました。当時、下釜ダムの室原知幸さん（以降、室原さん）が存命だったため（昭和45年6月29日逝去）、地元の方々は予備調査時点から、室原さんに話を聞きに行かれていたようです。

上野会長の話では、室原さんにダム反対の話をしたところ「私自身は自分の考えで国に反対しているけれども、あなた達はダム反対をするより、生活を考えた方が良い」と話を聞いたと伺いました。



現役職員からのQ & A

現役) 「竜門ダム建設絶対反対期成会」から「竜門ダム水没対策協議会」に変わりましたが、小野所長が来る前からその雰囲気はありましたか？

小野) 上野会長は、予備調査段階（S3 9年度開始）から室原さんにお会いになっていようです。そこでの話なども含め、水没者大会などで相当激しい議論が交わされたと聞いています。その結果、最終的に、ダム反対の旗印をおろすことを踏み切られたのではないのでしょうか。最初のうちは、ダム反対の派閥はいたらしいが、一年位で会長に同意されたようです。

当時は、上野会長のところなど、地元にはかなり足をはこびました。上野会長が様々なダムの困難性などを理解されて決断されたことは、大変助かりました。上野会長との、信頼関係が築けた最大のポイントは、水没者全員が希望していた、集団移転地の確約が出来たことでした。

上野会長は、最初の会談の時から、集団移転が条件で、移転先を是非、県有地の玉祥寺伝習農場跡地にしたいとの強い要望でした。私も、その意向を受け止めて、全力を挙げて努力すると約束しました。その後、熊本県企画部を窓口にして折衝し、期待に応える事が出来ました。

今、遊蛇口の立派な集落を見ると、あの当時のことが思い出され、私の退任後、基盤づくりに努力された、多くの方の御苦労を思うと頭の下がる思いがして、感無量です。

「茶碗酒」「菊池市市役所職員が橋渡し」

現役) 地元の方々との距離を近くする“コツ”などはありますか？

小野) 地元の方と話すときは、「茶碗酒でもつきあわなければならない」と考えていました。集落毎の説明会などの後も、茶碗酒で最後までつきあっていました。また、菊池市役所に、熱心な職員（ダム対策室長 佐野さん）がおられ、その方が「地元」「市役所」「建設省」を掛け持っていたいただいたことも大変大きかったです。



歴代所長意見交換会の様子



第2代 竜門ダム工事事務所長

たけだ ただまる
竹田 忠麿

在任期間：昭和50年4月～昭和57年3月

会場を和ませる、地元大分弁

当時、仕事の7割は、導水計画対応だったように記憶しています。また、地元説明では、局長代理として大分県出身の職員（幹部）が現地入りしました。大分弁を交えての説明会では、会場の空気が和みました。

着任当初の苦慮

地元の方は、大変ダムの事を勉強されておりました。

着任当初、地元の信頼をいただくことに苦慮しました。

ダムタイプの検討

ダムタイプについてコンクリートダムからスタートして、アースダムとの比較などを経て、コンバインダムの検討を行いました。



歴代所長意見交換会の様子



第3代 竜門ダム工事事務所長

いまむら みずほ
今村 瑞穂

在任期間：昭和57年4月～昭和58年12月

ダムタイプの変更

私が、竜門ダムに赴任するとき、土木研究所の上司からダムタイプについて（フィルダムのままでよいのかどうか）もう一度検討して欲しいとの指示がありました。竜門ダムサイトは左岸から右岸の中腹までは堅硬な花崗岩で、右岸の中腹以上は溶岩と火山灰の混じりあった複雑な地質です。この右岸の地質に照らしてフィルダムを中心に検討がなされていました。

一般的に洪水調節のダムでフィルダムを考える場合、洪水吐の敷高が下がり設計条件が厳しくなります。右岸側に洪水吐を設置することは地質的に困難であるため左岸側に設置する計画でした。

洪水吐の設計をしたところ、洪水吐の上に位置する左岸の山は転石混じりの200メートル近い不安定な斜面となり、その安全性への懸念とともに法面保護に大規模な工事を要することが判りました。

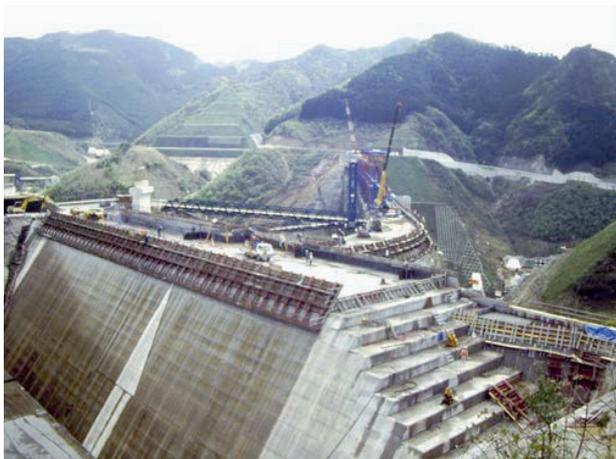
また、洪水吐コンクリートの量が30万立方メートルにも及び（通常は10万立方メートル程度）、小型のコンクリートダムと100メートルクラスのフィルダム2つのダムを施工するに等しいものでした。

そこで、フィルダムしか建設できない右岸側にはフィルダムを、基礎岩盤の堅硬な右岸山裾～中央～左岸側にかけてはコンクリートダムとして、その継ぎ目にはセパレートウォールを設置するコンクリートを重点にしたコンバインダムとすることとしました。セパレートウォールの高さは40メートル程度でしたが、全国のコンバインダムの事例などを参考にし実施可能であると判断しました。

左岸の長大法面は、左岸の山着けの位置を工夫することにより解決することができました。

また、フィルダムでは放流水の方向が川の流れと平行ではないため水理的にも構造的にも複雑な減勢工とならざるを得ませんが、コンクリートダムでは洪水吐を河心にして川の流れと平行に設置することが可能であるから洪水吐も減勢工もその設計を単純化することができました。

当時、全国的に見ていくつかのダムでダムタイプ変更に伴う問題が発生していましたが、幸いにして竜門ダムにおいてはトラブルもなく、いくつかのプラスの副次的効果も認められつつ無事にダムタイプ変更を遂行することができました。



セパレートウォール工事状況

事務所幹部総出の一斉説明

ダムのタイプ変更は単に技術的な問題にとどまらず、様々な課題が絡んでくることとなります。すべての可能性のある課題を先取りして対処しておかないと大きな混乱を招きかねません。竜門ダムでは、昭和56年に補償基準が妥結して、買収範囲を公表して個人補償交渉の段階に入っていました。この段階で買収範囲を変更する（減少させる）ことは地権者の不信感を招きかねません。

そこで、新しいタイプのダム設計に基づいた買収範囲を想定して、地権者別に課題を整理して納得いただけるような買収線を設定しました。

また、地元地権者や関係機関にどのようにしてダムタイプの変更を周知させ理解を得るかについては、敏感で複雑な課題をはらんでいました。

例えば、ダムタイプの変更について関係者への伝わり方に差異が生じたとすると、情報の遅れや少ない側の「聞いていない。」といった不満となって混乱が生じます。

そのため、特に、地元関係者には、事務所幹部総出で、一斉に、同じ内容の説明をあらかじめ準備して1日のうちに終わらせることによりこの種の混乱を回避することができました。

指導力あるリーダーの存在

竜門ダム事業が比較的スムーズに進行したことは、水没者の方々が指導力のあるリーダーのもとにまとまっていたことに尽きると言えます。

事務所側としては竜門ダム水没対策協議会の会長である「上野松記」さん（以降、上野会長）と協議をすれば水没者団体内は、すべてまとまるといった具合でした。

蛇足ですが、竜門ダムのタイプ変更がほぼ終了した段階で私はハツ場ダムへ転勤を命じられました。竜門ダムの任期は1年9ヶ月短い期間でしたが、その後のハツ場ダムにおける厳しい地元折衝においても上野会長からは様々な形でご支援を頂きました。

関係者からの感謝の意

先般、上野会長の玉祥寺のお宅を訪問し仏壇にお参りしました。代替地の家屋は30年を経過して周辺の自然環境とも調和して落ち着いた雰囲気でした。

応対いただいたご家族の話では「昨年（2017年）、利水者（農業用水等）から感謝の意を表したいとの申し出があり、国土交通省を含めた関係者から水没者に対する感謝祭を催していただきました。ありがたいことです。」とのことでした。

長い間ダム建設に従事してきた中で、このような心温まる体験は初めてのことでした。



2017竜門ダムフェスタ・感謝祭の様子



第4代 竜門ダム工事事務所長

よしおか かずのり
吉岡 和徳

在任期間：昭和58年12月～昭和61年9月

集団移転完了

着任当時は、「竜門ダム水没対策協議会」（以降、水没協）と2年前に補償基準を妥結し、その後、鋭意個別に補償契約を進めて、全87戸の内の20数戸を残すという状況でした。

最終的に補償契約を完了したのは、昭和60年の3月末で、着任後更に1年と3ヶ月を要したことになります。

全世帯の移転の完了は昭和61年の3月末でした。

その後、水没区域内の神社と観音堂が集団移転地に新築移転され、これで遊蛇口の地にも魂が入った、やっと移転を完了したと、地元を挙げて関係者共々、遷宮祭を晴れやかにお祝いしたのは同年の秋、私が当地を離れる3年目のことでした。私にとりまして忘れられない出来事でした。

本体工事への見通しにも手応え

工事面では、付け替え道路等の関連事業を進めながら、一日も早く本体工事、導水路工事の着手に漕ぎ着けるべく、残る技術的な検討、設計、諸手続きなどを進める段階にありました。

また、補償の進展と共に、懸案であった代替農地の早急な具体化が急がれましたが、工事の発生土を利用する計画のため、速やかな工事の着手が必須でした。

しかしながら、この時期、様々な情勢から望ましい予算の確保は叶わない状況でした。「百姓に田んぼが無くしては生活も無い、何時まで待つのか」と水没協の会長である「上野松記」さんから何度も地元の苦境を述べられる状況になりましたが、菊池市の助力も得て、事務所一丸で窮状打開策を探りました。

幸いにも在任中に代替農地のもう一つの懸案であった用地問題も解決し、工事予算の増額と本体工事への見通しにも手応えを得ることができました。

工事の本格化に向けて、ダム事業に精通された吉村氏に後を託すことが出来たのは何よりであったと思っています。



昭和61年 遊蛇口遷宮祭



造成中の遊蛇口地区



第5代 竜門ダム工事事務所長

よしむら たすく
吉村 佐

在任期間：昭和61年10月～昭和63年6月

本体工事の発注と時代の要請

着任当時は、いよいよ本体工事の発注という段階に差しかかり、工事価格の積算を、短期間に仕上げる必要が生じました。九州地方建設局（現九州地方整備局、以降本局）からの応援を得て積算チームを編成し、何とか成し遂げる事が出来ました。

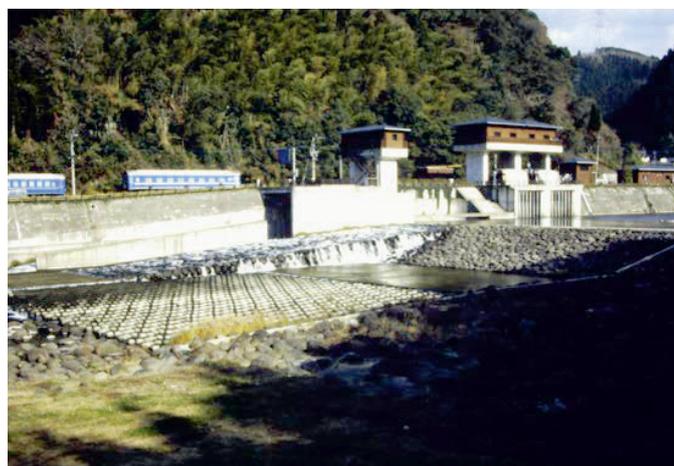
また、公共事業の門戸を海外に向け開放する必要があるという時代の要請を受け、本局で現場説明するという事もありました。

立門取水堰の発注

ダム本体の他に、立門取水堰も発注する事となりましたが、堰のタイプを決める必要がありました。この問題では、本省河川局内で意見が分かれており、調整する必要がありました。幸い、メンテナンス、その他の要因で現在の形状で決着をし、設計する事が出来ました。ここでも、要移転家屋が二十数戸あり、一つのダム並みの労力が必要となりました。



竜門ダム着工式



建設直後の立門取水堰



立門堰取水全景



第6代 竜門ダム工事事務所長

じょうたつ としお
丈達 俊夫

在任期間：昭和63年6月～平成3年3月

歴史を知ることの重要性

私は着任後、江戸時代に筑後川から菊池川に域外分水された歴史について、地元で話をしたところ、「よそから来た人がこんなことまで知っているのか」と、地元の方々の信頼を得ることができました。津江導水路のように、10m³/sもの域外導水路は全国でも例がなく、素晴らしい事業です。歴史とともに、是非PRしてほしいです。地域興しにもなりうると考えています。

漁業補償、津江導水路湧水、事前補償

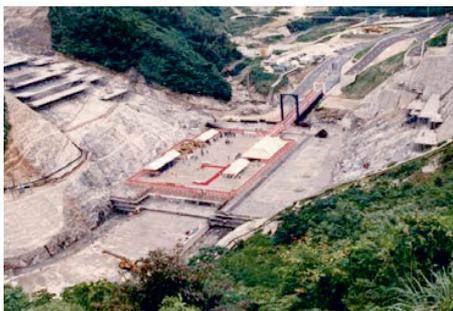
ダム本体工事は着工されていましたが、漁業関係者との漁業補償協議が手つかずの状態でした。一方で、ダム定礎式までの1年間しかなく、協議調整に奔走しました。

また、津江導水路の工事では、大量の湧水が発生し、地表面では井戸涸れなどの影響が現れ、その対応に追われました。

当時の九州地方建設局（現九州地方整備局）に、事前補償の必要性を説きました。当初は、現物補償以外出来ない、難色を示されました。滝沢ダムの地すべり補償の事例も交えて説明し、事前補償の了解を取り付けました。その上で、全戸補償をすることが出来ました。

「出来ないことは出来ない」とあえて言う

地元からは、「津江導水路建設当時、トンネル掘っても水は涸らさない。地下水に影響は与えないと話していた！」と強く言われましたが、私は、「地下のことは解りますか？涸れるものは涸れるんですよ！」と言ったところ、大げんかの末、地元の方からは、「正直な人だ、よく言った」と言われました。



定礎式



古川兵戸井手



現在の津江導水路取水口

九州初のRCD工法

九州では初めてのRCD工法による合理化施工を採用するということで、布目ダム（水資源機構）でRCD工法を経験した小生が指名されたと思っています。

15年振りに見せてもらいましたが、ほとんど漏れもなく、下流面もきれいで安心しました。天端は全面越流でピアークレストが連続し、ケーブルクレーン打設が最も便利でしたが、地形上からリフティングベルトコンベアー方式（特許取得）を採用しました。



第7代 竜門ダム工事事務所長

よしだ ひとし
吉田 等

在任期間：平成3年4月～平成5年12月

工事推進上の課題

着任早々津江導水路工事において、鳳来工区の切羽が県境の大きな断層破碎帯にぶつかりました。支保工は傾き、切羽のボーリング孔から変質粘土がとぐろを巻いて流出し、鳥肌が立ちました。都留工区では水涸れを起こし生活用水に支障をきたしました。着任早々これらの対応に忙殺されました。

水涸れを起こした地区ごとの説明会に、井上上津江村長が同席してくれました。「俺は村長と心中する。」と思わず呟いた時、村長のニコッと笑った顔は、今でも忘れません。

強風化マサのブラケットグラウチングにも悩まされました。いろいろ工夫をしましたが、9次孔まで施工しました。ハチの巣状に穴だらけになった現場を見て、「俺は何をやっているんだ。これでも技術者か。」と猛烈に反省しました。

ダム基礎グラウチングを肉体労働から頭脳労働に早く転換しないといけないと痛切に感じたことが、後に土木研究所でグラウチング技術指針を改定する際の原動力になりました。

ダム湖の有効活用

常時の水面が高く貯水池が長方形なダム湖を有効利用できないかと考えていた時、熊本国体のボートコースの候補地がないという話を聞きました。貯水池の平面図にボートコースの長方形を乗せると、すっぽりはまった時は思わず小躍りしました。

県の漕艇協会や市役所の人達と一緒に、東京の日本漕艇協会へA級漕艇場指定の陳情に行きました。

ダム完成後は、熊本国体だけではなく大分国体の漕艇場にもなりました。国体の漕艇競技を見に行った時には、思わず涙がこぼれました。

使用上の注意事項

- 泳力及び状況判断力の養成を常時心がけること。
 - 「自分の命は自分で守れ」
 - 「溺水・溺死した場合は、絶対に顔から離れてお泳がないこと」
 - 「緊急不測・救助法など心得ておくこと」
- コースを知る。
 - 「悪天候時は水上練習しない」
 - 「練習物に衝突の危険を回避する」
 - 「危険水域の確認を行う」
- コース使用ルールの厳守。
 - 上り（スタート方向）は5レーン・6レーン 使用
 - 下り（ゴール方向）は1レーン・2レーン・3レーン 使用
 - 4レーンは、中央分層帯としてあける。
- 練習時を速めて、救命具の携行を厳守すること。
- 単独練習を避ける。出来る限り救助艇（監視艇）を付けて練習すること。
- 事故発生時の対応を周知徹底しておくこと。
 - 消防レスキュー隊への連絡・・・菊池広域消防本部 TEL119
- 乗艇時の艇の点検を徹底すること。
 - 「ロープワークの確認を付け」
 - 「舵ひきは強く締めない」
- 水上練習を行う場合は、必ず監督・コーチの許可を得ること。
- 艇庫兼研修センター及びリキング広場の使用について。
 - ① 遠来し客以外、火気厳禁
 - ② 定められた場所以外は飲食・喫煙禁止
 - ③ 使用後の艇庫清掃を行う
 - ④ 使用許可以外での使用及び立入り禁止
 - ⑤ 毎週月曜日は休館日です

緊急連絡先

- 菊池広域消防本部 TEL119
- ダム管理事務所 TEL0968-27-1120
- 菊池市教育委員会 社会体育課 TEL0968-26-7234

菊池市斑蛇口湖ボート場コース概要図

コース概要	
コース	2000m
レーン幅	12.5m
レーン数	6レーン
水深	274EL時7m以上
流速	なし

現在地
艇庫兼研修センター
TEL0968-27-1680

斑蛇口湖ボート場



第8代 竜門ダム工事事務所長

こが よしのり
古賀 義徳

在任期間：平成5年12月～平成7年3月

地元情勢など

私が着任した当時は、工事の最盛期だったので、技術的な検討に、相当な時間を充てることができました。また、諸先輩方の御苦労と御努力で地権者との関係も良く、定期的に竜門ダム水没対策協議会の会長である「上野松記」さんや、役員の自宅を訪問し、お話しさせていただくことができていました。

津江導水路の湧水による水涸れの件では、中津江村長や、議員の所へ何度も足を運び、簡易水道の設置について了解を得、一部工事に着手しました。

上津江村からは、津江導水路から竜門ダムへ水が流入している件で、「水をやるとはっていない」とお叱りを受け、その都度説明に伺いました。

進捗する事業

私は、ロックフィルダムの盛立開始から盛立完了まで携わる事が出来ました。特に、コア材の盛立やセパレートウォール部の施行には注意を払いました。

道路関係の工事では、付替県道でトンネル2本、ピア高5.5mの2径間連続トラス橋、市道付替等、立門導水路では、貫通式を行うことが出来ました。

津江導水路では、高圧湧水帯の処理で、厚さ5mのバルクヘッドを設け、薬液の注入をして進めましたが、対策に半年かかって掘削は僅か30mと困難を極めました。貫通は後任の所長さんに託しました。

技術的にとても貴重な体験をすることができました。

ダムへの理解を深めるために

一般の方への理解を深めるため、熊日新聞の論説委員の方々をダム現場へお招きし、現場を見て頂きました。後日、新聞のコラム欄に好意的な記事を載せていただきました。

また、竜門ダムマスコットキャラクター「ミュウ」の誕生。地元から、名前を公募し、応募総数1006通の中から選ばれました。カードなどを作り配布しました。

竜門ダムは、熊本市内にも近いため当時の菊池市長は、菊池温泉→竜門ダム→菊池渓谷→阿蘇を結んだ観光ルートをベースに地域振興を期待されておりました。

菊池、竜門ダムへの想い

熊本地震で阿蘇も菊池渓谷も被害を受け、早く復興を願うばかりです。

また、竜門ダムが、洪水調節や、利水に効果を発揮するとともに、「地域に開かれたダム」として様々なイベントが行われ活況を呈しているようで嬉しいです。



ロックフィルダム部盛立状況



第9代 竜門ダム工事事務所長

かみむら じゅいち

上村 寿一

在任期間：平成7年4月～平成9年3月

残された課題

着任した平成7年4月は、先月に堤体の盛立が完了し、ダム本体工事の最盛期が過ぎたところでした。主要課題は、早期の試験湛水開始、津江導水路工事の進捗、および迫間導水路の着工でした。

赴任直後に、事業計画を変更するため、関係各位への説明に奔走したことが思い出されます。早期の効用発揮のための試験湛水に向けては、困難であるが故の課題が残されていました。例えば、立門分水に関する井堰協議会の同意取得では、迫間導水路が大きな条件でした。

迫間導水路ルートは概定している段階でしたが、津江導水路の件もあり、名水のある雪野地区の同意を得ることに難航していました。市議及び市職員のご支援、ご協力を戴きながら何とか同意を得ることができました。祭りを機会に伺った関係者のお宅で酔いが進む中で、奥様が仏頂面のご主人へ取り次ぎして下さったことが忘れられません。

立門分水堰の湛水域に未移転家屋が一軒残っており、残念ながら最終的に強制代執行をせざるを得ませんでした。湛水域の道路敷きの名義変更にも大変な手間が要りました。

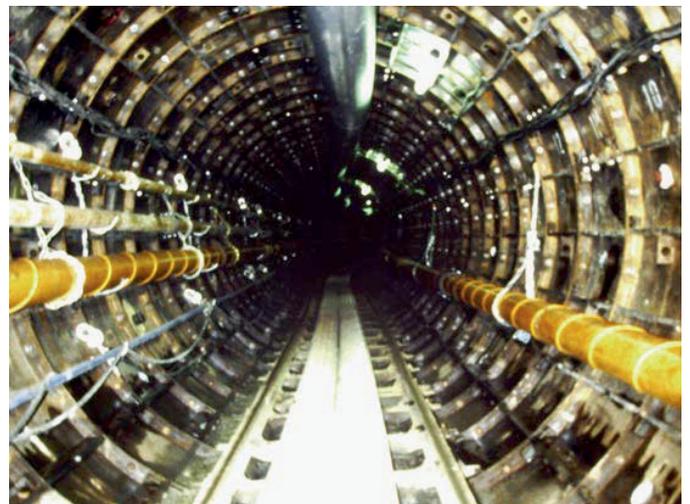
これらを解決し、立門導水路・分水堰完成直後のクリティカルパスで試験湛水を開始することができました。この時、竜門ダム水没対策協議会の会長である「上野松記」さんもご健在で、試験湛水開始にご満足されていました。

津江導水路と地域との交流

津江導水路では、工事そのもの以上に、導水トンネル工事に起因する水涸れへの対応に心血を注ぎました。代替水源も工事後に水量が細るなど解決がなかなか図れない状況で、上津江村、中津江村の役場、村議会から厳しく叱責される次第でした。接触を密にし、ソフトボール大会、収穫祭や鯛生金山祭り、農家訪問などを通じて交流を深め、こちらの真摯な取り組みを丁寧に説明しご理解いただくことに努めました。



津江導水路



迫間導水路 工事状況

地域に開かれたダム

竜門ダムの上流に鳳来・穴川地区があり、この地区に通じる県道（菊池～鯛生線）がダム事業により付け替えられました。

この開通式での祝賀会を機会に、地元との距離が一気に縮みました。元々活力のあったこの地区は、付け替えに伴う道路の改良により、菊池市街へのアクセスが大幅に改善されて益々元気になりました。

そして、現在、ダム直下の地区ともども、「地域に開かれたダム」としての竜門ダムに大きな貢献をいただいています。

幸い、現在の菊池市長はダムを通じた地域活性化に力を入れられているとのこと。移転地の遊蛇口地区も含めて、ダムを通じた地域の一層の活性化が図れるよう、菊池川河川事務所の引き続きのリードをお願いしたいと思います。

最後に…

最後に、近年の九州は毎年のように自然災害に見舞われています。その中であって、菊池市周辺は大きな水害を受けずに済んでいます。

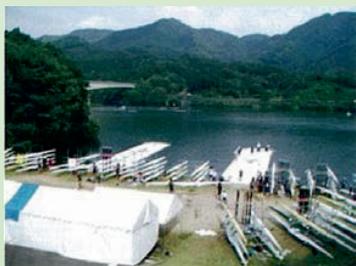
また、安定した水供給により、迫間川沿川、菊池台地および玉名平野の農業生産は安定化が図れています。改めて、竜門ダム事業に係る全ての関係者に敬意を表しつつ、自分もその一員になれたことを幸いに思います。

Topics

■地域に開かれたダム【指定年度：平成5年】

竜門ダムでは、地域の声を聞き、地域の創意工夫を活かし、ダムの地域への開放を一層進め、ダムが地域にとってより密着した施設になるように関係機関が支援して整備を行い、ダムを核とした地域活性化を図っています。

ダム湖周辺にさまざまな施設が造られた他、ダム見学や毎年夏・秋に行われているダムフェスタ等のイベント会場としても利用されています。



ボート大会



竜門ダムフェスタ



グラウンドゴルフ大会



RonRonkan



竜門ダム湖の周辺整備イメージ図



第10代 竜門ダム工事事務所長

ふじた けんいち

藤田 乾一

在任期間：平成9年4月～平成11年3月

試験湛水と菊池台地農業水利事業

私は、試験湛水開始の一ヶ月後に着任しました。サーチャージ水位到達日（平成10年4月29日）は、祝日に合わせて設定し、一般の方々にご覧いただけるよう配慮しました。

試験湛水を開始した平成9年3月に菊池台地農業水利事業が完成しました。つまり、試験湛水を進めつつ、菊池台地に送水する必要がありました。

加えて、2年後の平成11年秋には、熊本国体のボート競技が予定されており、なんとか早く試験湛水を終えて、ボートコースの運用ができるようにしたいと考えていました。

受益地の首長さんからは、「菊池台地の農業水利事業が完成しているのに、送水できないとは何事だ」と、安定的な送水を強く要請されました。

実際のところ、全面的にダムから送水すれば、貯水位が上がらないため、対応としては、農地に備わっていた地下水を汲み上げるポンプを利用させていただき、その水と竜門ダムからの送水で対応しました。

湧水対応、恒久対策施設の水源まで

津江導水路では、高圧の湧水が発生する区間があり、特に都留工区が顕著で、どの区間で出てくるかも分からない状態でした。高圧の湧水に対しては、その3倍の圧力で薬液を注入しつつ工事を進めました。

また、水涸れに対する恒久対策施設の水源でも、十分な水量を確保できなくなるところが生じました。上津江、中津江の両村からは厳しいお叱りをいただきました。両村の役場、議会に何度も状況説明に伺い、水涸れ対策を急ぎました。



サーチャージ水位到達状況（試験湛水時）



現在の菊池台地での水利状況



第11代 竜門ダム工事事務所長

ますだ あきのり
増田 暁範

在任期間：平成11年4月～平成14年3月

建設ダム時代最後様々な処理に苦慮

私の着任時には、ダム本体は完成していましたが、津江導水路の漏水対策施設の補償をどのように行うか悩みました。最終的には直轄で管理するとの結論になりました。当時は、週に1, 2回両村長さんを伺っていました。

最も苦労したのは、津江導水路の漁業補償でした。補償費を3, 4回提示しましたが、なかなか了承を得られませんでした。

「完成を祝う会」

まだ筑後川下流の海の漁協との交渉が残っていたため、施行式は行えず、菊池市の体育館において「完成を祝う会」のようなものを行いました。

台風被害やアクシデント

平成11年の台風18号の直撃により、管理所の屋根や分水槽の屋根なども壊れる被害が出ました。風速は60m/sにもなりました。

迫間導水路工事では、ボーリングマシンの進路がズレるといった問題も発生しました。その対応にも苦慮しました。

最後に…

最後になりますが、竜門ダムが、計画からこれまでの永きにわたり、その目的を果たしてこれたのは、関係する全ての方々の絶え間ない努力とたくさんの支え、そして感謝の気持ちが育む「信頼関係」があってこそと思います。

これまで関係頂いた全ての方々に感謝申し上げます。

竜門ダム事業に携わった一員として、これを誇りに思い、竜門ダムがより一層、広く愛されるダムとなり、地域活性化に寄与できますよう、微力ながらご支援させていただきます。



くまもと未来国体ボート競技大会



竜門ダム工事事務所閉庁に伴う感謝の集い

筑後市

八女市
福岡県

日向神ダム

松瀬ダム

竜門ダム周辺観光マップ

RYUMON DAM の恵みがひらく未来

みやま市

大牟田市

南関IC

大津山

田中城跡

癒しの森ゆーか石

扇間深谷キャンプ場

熊本県

山鹿市

平山温泉

八千代邸

一本松公園「石のかざぐるま」

南関町

内田川

山鹿出張所

山鹿維持出張所

菊池川河川事務所

歴史公園跡聖域

荒尾市

玉名市

トンカラリン

熊本県立歴史考古場

道の駅「水辺プラザかもと」

道の駅「七城メロンドーム」

和木町

三木川

玉名出張所

玉名温泉

道の駅「水辺プラザかもと」

道の駅「七城メロンドーム」

福木温泉

菊池川

有明海

玉東町

熊本市

北区

合志市

有明の里 淵水孔子公園

田原新公園

福木IC

玉名IC

菊池川

山鹿川

岩瀬川

石田川

三木川



発刊にあたって

竜門ダムは、菊池川、迫間川の沿川の治水安全度の向上及び熊本県北部唯一の水瓶として、農業用水をはじめ様々な水利用を目的として、多くの方々のご理解とご協力により平成14年に完成いたしました。

ダム完成以降は、治水、利水だけでなく、新たな地域資源として地域の発展、活性化に寄与すべく管理運用させていただいているところです。

竜門ダムでは、受益地域の方々を始めとした皆様からのお声をいただき、運用を開始してから15年の節目と併せて、竜門ダムフェスタ・感謝祭を開催させていただきました。

当日は流域内外の受益地域の方々から、ダム建設にあたり用地提供等のご協力いただいた皆様、導水路工事にあたりご協力いただいた皆様に感謝の言葉をいただきました。

また、竜門ダム建設に携わられた歴代の竜門ダム工事事務所長による意見交換会を開催し、竜門ダム建設における様々なご苦労や経緯、地域とのつながりを再認識させていただきました。

この度、竜門ダムの建設の経緯をはじめ、効果・利活用等竜門ダムが担ってきた役割と歩みを合わせて紹介し、流域及び水源地域の更なる飛躍を祈念し、竜門ダムの情報を発信する「竜門ダムの軌跡」を編纂いたしましたので、皆様にご高覧いただければ幸いです。

これからも、竜門ダムの建設、管理において、ご尽力、ご協力いただいた皆様方への感謝の気持ちを忘れることなく、地域とともに歩んでいく所存でございます。

最後に、本誌発刊にご協力・ご指導いただいたすべての関係者の皆様に謝意を表し、発刊の言葉といたします。

菊池川河川事務所長 鶴崎 秀樹



恵みに感謝、未来への絆 竜門ダムの軌跡

平成30年6月 初版 発行
平成31年3月 第2版発行

編集・発行

国土交通省 九州地方整備局
菊池川河川事務所

〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿178番地
TEL. 0968-44-2171



国土交通省 九州地方整備局
菊池川河川事務所